

第五十二回
帝國議會
衆議院

登錄稅法中改正法律案外三件委員會議錄(記)第二回

第五十二回
帝國議會
衆議院

出席政府委員左ノ如シ

大藏省主稅局長 黑田 英雄君

司法政務次官 本田 恒之君

昭和二年一月三十一日(月曜日)午後一時十九分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 武藤 金吉君

理事 奥村 千藏君

理事

理事 高橋 熊次郎君

理事 小西 和君

理事 浅川 浩君

理事 斯波 貞吉君

理事 永田 善三郎君

理事 佐藤球三郎君

理事 松本 真平君

理事 木暮 武太夫君

理事 藤代君

理事 増田 義一君

理事 同月二十九日委員松浦五兵衛君、佐々木長治君、志村清右衛門君、吉木陽君辭任ニ付其ノ補闕トシテ二十九日岩切重雄君、星島二郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ

同月二十九日商事非訟事件印紙法中改正法律案(政府提出)ノ審査ヲ本委員ニ付託セラレタリ

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣 片岡 直溫君

リマセヌ、御必要ガアツタナラバ調べレバ出來ルダラウト思ヒマスカラ、取調ベテ差上グマセウ

○丹下委員 此度ノ登錄稅法中改正法

問題ハ、前議會ノ稅制整理案ヲ受ケマ

律案外三件、所謂第二次稅制整理案ノ

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

○武藤委員長 是ヨリ會議ヲ開キマ

ス、前回ニ引續イテ質問ヲ許シマス、丹

下君

○丹下委員 一寸前以テ司法省ノ政府

委員ノ方ニ御尋致シテ見タイノデア

リマス、凡ソ此自作農程度トシテ認メ

思フノデアリマス、農村ノ現狀ニ鑑ミ

木長治君三十一年志村清右衛門君、吉

木陽君辭任ニ付其ノ補闕トシテ二十九

日志村清右衛門君、長田桃藏君、三十一

日岩切重雄君、星島二郎君ヲ議長ニ於

テ選定セリ

同月二十九日商事非訟事件印紙法中改

正法律案(政府提出)ノ審査ヲ本委員ニ

付託セラレタリ

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣 片岡 直溫君

○本邦政府委員 今手許ニハ持ツテ居

カ

マシテハ、非常ニ謳歌サレテ居ルコトニ於キマシテハ、非常ニ謳歌サレテ居ル現象デアルコトヲ私共信ジテ居ルノデアリマス、ソコデ今回ノ此第二次稅制整理ニ於キマシテ、此土地ニ關スル登錄稅ニ付テ、是等ノ自作農ニ關スル事柄ニ一向考慮ヲ拂ハレテ居ラヌコトヲ、私共ハ遺憾ニ考ヘテ居ルノデアリマス、ニ付テ、是等ノ自作農ニ關スル事柄ニ自作農地ノ地租全免ト云フモノト相俟ツテ、一面ニハ自作農地ニ對スル登錄稅ノ全免ヲ圖ルコトガ、最モ今日農村ノ社會政策トシテハ必要デナカラウカト私ハ考ヘルノデアリマス、先以テ此自作農ノ相續ニ依ル所ノ土地所有權ノ取得ノ登記デアルトカ、或ハ自作農ノ目的ヲ以テ遺言其他無償名義ニ依ル土地所有權ノ取得ノ登錄、又自作農ノ土地所有權ノ保存登記、或ハ自作農ノ買入ノ登記、是等ニ付キマシテ政府ハ如何ナル所見ヲ持ッテオキデニナルカト云フコトヲ御尋ネ致シタイノデアリマス、デ此法律ヲ見マスト、第十九條ノ組合等ヲ通ジテ爲ス所ノ自作農ノ創定維持事業ニ關スル國庫ノ補助金ヲ受ケテ行ヒマス土地所有權ノ登記ニ付キマシテハ免除サレテ居ルノデアリマス、此點ヨリ見マシテモ聊カ矛盾デハナカテラウカ、即チ政府ノ自作農創定維持ノ

資金ヲ利用シテ買入レル者ニ對シテハ其登録税ヲ免除スル、然ルニ自己資金ヲ以テ買入レル者ニ對シテハ免除スルコトガ出來ナイト云フコトハ、是ハナル矛盾デアルヤウニ思ハレル、隨て一面ニ於キマシテハ、即チ政府ノ資金ノ借入ヲ獎勵スルヤウナモノデアル、因ヨリ政府ノ低利資金ハ非常ニ低利ニシテ、大變ニ便宜ヲ與ヘルコトハ結構デアリマス、併ナガラ是ノミニ限ッテ登録税ヲ免除スル、自己ノ資金デ買フ者ニハ免除シナイト云フコトハ、此點ニアリマス、或ハ之ニ就キマシテハ、果シテソレガ自作農ノ目的デアルカ否ヤト云フコトガ分ラナイト云フヤウナ御議論モアルカモ知レマセヌ、是ナドニ付キマシテハ、或ハ町村長ノ取調べタ調書ニ依テ其證明ヲ取ルカ、何等カノ方法ヲ以テスレバ其事實ハ明瞭ニナルコトト思フノデアリマス、此點ニ付キマシテ先づ大藏大臣ノ御所見ヲ伺ッテ見タイト思フノデアリマス

除致シマシテ、サウ云フ事業ノ遂行ニ於キマシテ之ヲ容易ニスルト云フ爲ニ登録稅法ニ於テ自作農獎勵ノ趣旨ニ合致スルヤウニ致シマスコトハ、唯今御述ベノ通りニ必要ナコトト考ヘルノデアリマス、併ナガラ左様ニ自作農ヲ獎勵スルナラバ、何故ニモウ少シ進ンデ自作農ノ持ツテ居ル土地ノ相續ノ場合ニ於ケル相續ノ登記、或ハ移動ノ場合ニ於ケル登記等ニ付テ免稅ヲシナイカト云フヤウナ御趣旨ニ承ッタノデアリマス、是等ハ相續トカ移動ト云フヤウナ場合ニ於テハ、又他ノ關係ニ於テ、詰リ移動ノ場合ニ於テハ、一面ニ於テ相續稅ニ代ハル登錄稅ニ於テ登錄稅ヲ納メサセルト云フ風ナコトモアルノデス、登錄稅ノ變更ノ時ニモ考ヘテ居ナイ、又土地ノ相續ノ場合ニ於ケルモノハ、是ハ率ニ於テモ輕イ率ニナッテ居リマス、一般登錄稅法ノ登錄稅ハ多少手數料ノ趣旨ヲ其中ニ含ンデ居リマス、一面ニ於キマシテハ交通稅ノ精神ノ意味カラモ課稅シテ居ルノデアリマス、唯ニ最初自作農ニナル爲ニ土地ヲト云フ事業ニ對シテハ、成ベク登錄稅ヲ免除シテ其便宜ヲ圖ルガ適當デアルト云フノデ、之ニ限リマシテハ免除シテ居ルノデアリマス、是ハ即チ自作農ノ創設維持ト云フ一ツノ目的ニ應ジマス、シテ免除致シタヤウナ趣意デアリマス

ス、一般ニ之ヲ以テ總チ免稅スルト云
獨リ自作農ノミナラズ、他ノ色々ノ關係
カラ見テ之ヲ免除スルト云フコトニ
ナリマスルト、其影響スル所ガ非常ニ
廣クナルト考ヘルノデアリマス、然ラ
バ自己資金デ土地ヲ取得シテ自作ヲシ
ヤウト云フ者ニ對スル免稅ヲ何故シナ
イカト云フコト、一應御尤ト思ヒマス、
併ナガラ是ハ當局ニ於キマシテモ相當
ニ研究ハ致シタノデアリマスガ、自己
資金ハ只今御意見ノ中ニモアリマシタ
通り、ソレ等ノ土地ヲ果シテ自作ヲシ
テ行クカドウカ、又長ク將來自作ヲシ
マフノデハナイカト云フヤウナコト
ガ、取締上非常ニ困難デアリマス、自作
農ノ維持創設ノ利用ニ關シテハ相當ノ
監督モシテ、十分ニ其目的ニ副フヤウ
ニシテ監督ヲシテ參ルノデアリマス、
ソレニ副ハナケレバ之ヲ取上ゲルト云
フ途モアルノデアリマス、十分ニ其目
的ニ副フト云フコトヲ豫期スルコトガ
出來ナイノデアリマスカラ、自己資金
ノ場合ニ於テハソレガ非常ニ困難デア
リマス、其結果トシテ濫ニ斯ウ云フ名
ノ下ニ免稅ヲスルコトニ致シマスト、
一般ノ登錄稅ヲ納メテ土地所有權ヲ取
得スル時分ニ、著シク負擔ノ均衡ヲ失
スルコトニナリマスカラ是ハドウシ
テモ免稅スルコトガ出來ナイト云フ結

○丹下委員 只今黒田政府委員ノ御説明ガゴザイマシタガ、自作農獎勵ノ趣旨ニ依テ第十九條ノ八號ニ該當スルモノハ免除スルト云フ御説明デアリマシタ、自作農獎勵ノ趣旨ハ自作農ヲ増加スルト云フコトガ目的デアル、唯々現在ノ儘ニ放任シテハ中々其目的ヲ達スルコトガ涉々シク行カナイカラ、政府ハ之ニ對シテ資金供給ノ途ヲ開イテ獎勵シテ居ルノデアル、政府ノ施設ニ依ルモノデアルガ故ニ、自作農獎勵ノ趣旨ニ合致シテ居ル、自己資金デ土地ヲ買入レル者、或ハ他カラ資金ノ供給ヲ受ケテ買入レタ者ニ對シテハ自作農獎勵ノ趣旨ニ合ハヌト云フ、サウ・云フ道理ハナカラウト思フノデアリマス、唯取締上政府ノ低利資金ヲ融通シタモノニ對シテハ、ソレドヽノ手續ヲ經テ居ルカラ取締り易イ、併シ自己資金其他ノモノデ買入レタ場合ニハ取締ガ容易デナイト云フヤウナ御説デアリマシタガ、是ハ方法サヘ立テレバ如何様トモ取締ル途ハ付クト思フノデアリマス、一定ノ年數ニ於テ若シ自作農ヲ廢シタ場合ニハ追徵ヲスルナリ、或ハ賣却シタ場合ニ於テハドウスル、又事實自作合ニ於テハ、其農家ノ現實ヲ町村長ノコトハ決シテ言ヘナイト思フ、殊ニ相続稅ノ關係デ幾ラカ考慮シテ居ルト云

フヤウナ御説モアリマシタガ、漸ク小作者ガ自作農ニナツタ、一反ノ土地ヲ買入レタト云フヤウナ者ハ、相續稅法ノス、此位ノ手數料ハ——一面ニ於テハ自作獎勵事業ト相俟ツテ此手數料ヲ免除スルト云フ位ナコトハ、洵ニ微々タルモノデアルト思フ、國ノ收入ノ上カラ考ヘマシテモ大シタ問題デハナイト思ヒマス、ソレガ小作人ニ對シテハ非常除スル基礎ヲ築クモノデアリマスカラ、此點ニ付キマシテハ尙一應考慮ヲ願ナル恩典ニナル、ソコニ所謂農村ノ安定スル基盤ヲ築クモノデアリマスカラ、此點ニ付キマシテハ尙一應考慮ヲ願ヒタインデアリマス、相續其他ノモノニ付キマシテモ同様デアリマスガ、就中自己資金ニ於テ或ハ他ノ資金ニ於テ御歸リ下サイ——住宅問題ニ付キマシテハ、社會政策ノ見地ニ於テ政府ハ住宅ノ緩和ヲ圖ル意味ニ於テ大ニ考慮シテ居ルト云フ御陳述ガアッタノデアリマス、第十九條ノ第十一號ニ於テ「住宅

又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅通シテ購入セシタルモノト同様ナ扱ヲ十分ニ彼等ノ要求スルダケノ資金ヲ融通サレルナラバ、ソレモ結構デアリマスガ、今日ノ狀態ニ於キマシテハ、到底ナイト云フ風ニナリマス、而モ政府ガ組合員ガ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記」ニハ免除サレテ居ル、然ルニ之ニ對シテハ大藏當局ノ御意見ヲ承ツテ見タイト思ヒマス
○黒田政府員 御尋ノ初メノ點、即チ自作農ノ問題ニ付キマシテ御希望デアツタノデアリマスガ、一應御答ヲ申上ゲテ見タイト思ヒマス、御述ベニナリマシタ通リ、先程私モ御答ヘヲ致シタガ、自己資金デ自作地ヲ取得スルノデアリマスガ、其場合ニ於キマシテハ免除サレテ居ラナイノデアリマス、是ハドウ云フ意味デアリマスカ、同様ニ矢張産業組合ニモ其權利ヲ取得スルノデアリマス、併ナガラ之ニ就キマシテハ能ク申上ゲテ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス、登錄稅ニ付テハ登記ヲ致

作者ガ自作農ニナツタ、一反ノ土地ヲ買入レタト云フヤウナ者ハ、相續稅法ノス、此位ノ手數料ハ——一面ニ於テハ自作獎勵事業ト相俟ツテ此手數料ヲ免除スルト云フ位ナコトハ、洵ニ微々タルモノデアルト思フノデアリマス、此點ニ付キマ成程、一般ニ唯々國ノ收入ノ目的デナクシテ——手數料ノ意味ノアルコトハ、ソレハ承ルマデモナイ事デアリマス、此位ノ手數料ハ——一面ニ於テハ自作獎勵事業ト相俟ツテ此手數料ヲ免

除スルト云フ位ナコトハ、洵ニ微々タルモノデアルト思フ、國ノ收入ノ上カラ考ヘマシテモ大シタ問題デハナイト思ヒマス、ソレガ小作人ニ對シテハ非常除スル基礎ヲ築クモノデアリマスカラ、此點ニ付キマシテハ尙一應考慮ヲ願ヒタインデアリマス、相續其他ノモノニ付キマシテモ同様デアリマスガ、就中自己資金ニ於テ或ハ他ノ資金ニ於テ御歸リ下サイ——住宅問題ニ付キマシテハ、社會政策ノ見地ニ於テ政府ハ住宅ノ緩和ヲ圖ル意味ニ於テ大ニ考慮シテ居ルト云フ御陳述ガアッタノデアリマス、第十九條ノ第十一號ニ於テ「住宅

又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅通シテ購入セシタルモノト同様ナ扱ヲ十分ニ彼等ノ要求スルダケノ資金ヲ融通サレルナラバ、ソレモ結構デアリマスガ、今日ノ狀態ニ於キマシテハ、到底ナイト云フ風ニナリマス、而モ政府ガ組合員ガ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得得ノ登記」ニハ免除サレテ居ル、然ルニ之ニ對シテハ大藏當局ノ御意見ヲ承ツテ見タイト思ヒマス
○黒田政府員 御尋ノ初メノ點、即チ自作農ノ問題ニ付キマシテ御希望デアツタノデアリマスガ、一應御答ヲ申上ゲテ見タイト思ヒマス、御述ベニナリマシタ通リ、先程私モ御答ヘヲ致シタガ、自己資金デ自作地ヲ取得スルノデアリマスガ、其場合ニ於キマシテハ免除サレテ居ラナイノデアリマスカ、同様ニ矢張産業組合ニモ其權利ヲ取得スルノデアリマス、併ナガラ之ニ就キマシテハ能ク申上ゲテ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス、登錄稅ニ付テハ登記ヲ致

シマス際ニ於テ、其登記ニ付テ色ニノ
事情ヲ調査致シマシテ登記ヲ致シマス
ト云フコトハ、非常ニ困難ナノデアリ
マス、是ハ司法省ノ政府委員カラ御答
申上ゲル方ガ適當ト思ヒマスガ、私ノ
事ニモ關係ガアルノデ申上ゲルノデア
リマス、其場合ニ於テ果シテ自作地デ
アルカドウカ、ドウ云フ目的デ使フカ
ト云フコトヲ登記所ニ於テ登記ヲシ
テ、サウシテ其適用ノ税率ヲ決メルト
云フコトハ、非常ニ當局トシテハ實際
ニ於テ困難ナノデアリマス、而已ナラ
ズ先程申上ゲタ通リ、取締ノ出來ナイ
モノニ付テ或ハ税率ヲ輕減シ或ハ免除
スルト云フコトニナリマスト、其結果ハ
非常ニ負擔ノ上ニ不公正ヲ來シ、印紙
稅ニ於テモ比例稅ヲ階級定額稅ニ直シ
タ趣旨モ其處ニ一ツハ理由ガアルノデ
アリマシテ、實際ニ於テ法文ノ上ニ如
何ニ整ヘマシテモ、實行ノ上ニ於テ是
ノ不公正ヲ來スト云フコトニナリマス
ノデ、成ベク之ヲ實際ニ合フヤウニシ
テ負擔ノ公平ヲ期サナケレバナラヌ、
印紙稅ニ於テモ同ジャウナ次第デアリ
マスガ、此場合ニ於キマシテモ先程申
上ゲタ通り、取締ガ出來キマセヌト云フ
ト、結局ハ負擔ノ公正ヲ失フト云フコ
トニナル、故ニ先程申上ゲタ通り自作
農ニ利用致シマス、是ハ相當取締ガ出
來マスル、又其土地ガ其目的デ取得サ
レタト云フコトガ甚ダ明瞭デアリマス

カラ、登記ノ場合ニ於テモ取締ノ上ニ
於テモ便宜デアルノデアリマス、ソレ
故ニ之ニ就テハ免除ヲ致シタ次第デア
リマス、ソレカラ住宅ニ付キマシテ、住
宅組合或ハ産業組合ガ取得スル場合ニ
於テ、登録税ヲ何故免除シナカツタカ
ト云フ御尋デアリマス、是ハ御尋ノ
通リ住宅組合又ハ産業組合ガ取得スル
場合ニ於テ登録税ヲ課ケマシテ、ソレ
ヲ組合員ニ移ス場合ニ於テハ登録税ヲ
免除致シテ居リマスガ、是ハ今日ニ於
テハ丁度二重ニナッテ課ケラレルト云
フコトニナッテ居リマスガ、是ハ住宅ノ
供給ト云フコトニ付キマシテモ、成ベ
ク便宜ヲ計ルヤウニスルト云フ趣意ヲ
以チマシテ、組合ノ所有權ヲ移ス場合
ニ於テ免除スルコトニ致シタノデアリ
マス、然ルニ産業組合或ハ住宅組合ガ
取得スル際ニ於テノ免除ヲシナカッタ
ノハ、理由ヲ申上ゲレバ、先づ自作農ト
云フヤウナ場合ト住宅ト云フ場合ト
ハ、余程事情ガ違フダラウト考ヘマス、
住宅ヲ自分で取得スルト云フコトハ、
自作農ガ自分ノ——即チソレニ依テ
自分ノ生計ヲ營ンデ行ク目的デアル所
ノ土地、田畠ト云フヤウナモノヲ自分
デ取得スルト云フコトト、多少住宅ト云
フモノヲ持ツト云フコトハ、其點ニ於
テ幾分カ負擔ノ上カラ見マシテモ違ヒ
ガアルト云フコトキ言ヒ得ルノデアリ
マス、併ナガラソレハ結局取得スル際
ニ於テハ免除ヲ致シテ居ルノデアリマ

スカラ、一面カラ見マスレバ其取得者ノ負擔ハ輕減ヲサレルノデアリマスガ、全部之ヲ免除スルト云フ必要モナカラウ、而已ナラズ産業組合若クハ住宅組合ガ多クハ家屋ヲ建テテ之ヲ組合員ニ渡スノデアリマスカラ、其建テマス際ニ保存登記ヲスルダケデアリマス、保存登記ノ登録税ト云フモノハ、御承知ノ通り余リ高率ニハナツテ居ラヌトハ、前申上ゲタヤウナ理由カラ適當ダラウ、又他カラ取得知致シマシテ、サウシテ土地ナラ土地ヲ買入レマシテ、サウシテ組合ニ渡スト云フコトニナルト、場合ニ依ルト住宅組合、産業組合等ガ住宅土地ヲ他ノ目的デ轉賣スルト云フコトモ起ルノデアリマス、是等ノ取締ト云フコトモ困難デアリマス、サウ云フ場合ニ於テ、若シ之ヲ他ニ賣ルト云フコトガアルト云フト、是ハ非常ニ負擔ノ權衡カラ申シマシテモ不權衡ヲ來スノデアリマス、ソレ故先づ是ハ組合員ガ取得スル際ニ、即チ移轉ノ登記、登録税ト云フモノヲ免除スルト云フコトガ適當デアルト云フヤウニ考ヘタ次第デアリマス、利用組合ト云フ御話モゴザイマシタガ、若シ利用組合ニ於キマシテ家屋ヲ建テマシテ貸スナリスル場合ハ、是ハ此條文ノ適用ガナイ、負擔ヲ輕減スル途ガナイデナイカト云フ御話デアリマシタガ、是等ハ前申ス通り保存登記ト云フダケノ負擔デアリマシ

○丹下委員 只今ノ御説明ヲ聽キマスト、ドウモ私ハ要領ヲ得マセヌ、利用組合ノ場合ニ——先づ御答ノ最後ノ分カラ申シマスルト、私用組合ノ場合ニ於キマシテ單ニ保存登記ダケデアル、大シタ問題デナイト云フ意味ニ私ハ聽取リマシタガ、是ハ利用組合ト雖モ土地ヲ所有シ、ソレニ家屋ヲ建設シテ、之ヲ組合員ニ利用セシムルコトガ出來ルノデアリマス、即チ其土地ノ權利ノ取得登記、ソレカラ家屋ノ保存登記、同ジク土地ニモ關係シテ來ルノデアリマス、唯々其負擔ガ僅カデアルカラ、構ハヌデハナイカト云フ議論ハ、是ハ間違ッテ居ヤシナイカト思フ、趣旨ニ於テ當然必要デアルトスルナラバ、矢張同様ニ免除スペキモノデハナカラウカト思フ、他ニ轉賣云々ト云フコトモアリマシタガ、是ハ相當取締ノ途ガアラウト思フ、殊ニ購買組合ナドデアリマスレバ、此組合員外ニ賣却スルト云フコトハ出來ナイ、財産處分ノ爲ニハ或ハサウ云フコトガアルカモ知レマセヌ、併シ其外ノ所ニ於テハ相當ニ取締ル途ガアラウト思フ、ソレカラ先ノ自作農ノマシタカラ申上ゲマスガ、自己資金ノ問題デアリマスガ、尙ホ御説明ガアリ

場合ハ取締ガ出來惡イ、政府ノ自作農維持創定資金ヲ利用スル場合ニハ取締ガ出來ル、結局自己資金其他ノモノニ承リマシテ間違ガナイデアリマセウカ、果シテサウトシマスレバ、政府ノ維持創定資金ヲ利用スル者ヲ登記スル場合ニ於テ、是ハ擔保ニスルト云フ意味ニ於テ明瞭ニ分ルト云フ程度ノモノデアラウト私ハ思ヒマス、若シ自己資金ノ場合ニ於キマシテハ、相當ノ手續ノ規定ヲ設ケマシテ、其事實ヲ證明スキ書類ヲ添付シテ申請スル手續ヲ執リマスレバ、其取締ガ絶對ニ出來ナイト云フコトハ萬々アルマイト思フ、此點ニ付テ尙ホ承ルコトガ出來レバ承ッテ置キタイト思ヒマス、尙ホ御説明ガナケレバ外ノ事ニ付テ御質問シタイト思ヒマス

バ困難デアルト云フ風ナ、サウ云フ程度ノ資金ヲ比較的必要トスルト云フモノデアラウト思フノデアリマス、サウ云フ事情ニ對シテ、一面ニ於テハ政府ハ安イ利ノ資金ヲ提供シテ創設ラスルト云フ場合ニ於テ、之ヲ登錄稅ヲ課ケルノハ、如何ニモソレハ調和ガ取レヌルト云フコトニナリマスレバ、是ハ單リ自作農ノ問題デアルノミナラズ、或サウデハナク自分ノ資金デ自作貨ヲ取ハ産業ノ方面カラ申シテモ、或ハ工業ニ必要ナル工業地ヲ取得スルト云フコトニ付デモ、或ハ免除シナケレバナラヌヤウナ問題モ色々關聯シテ起ルト思フ、其仕事自體ガ是ハ良イモノデアル、獎勵スペキモノデアル、サウ云フ仕事ニ使フナラバ之ヲ輕減シ、或ハ免除スルト云フコトニナリマスルト範圍ガ廣ガ色ニ世話ヲスルト云フ風ニスレバ、是ハ特殊ノモノデアッテ、ソレヲ調和ヲ保ツ爲ニ免除スルト云フ趣旨デ來ルノデアリマスカラ、先程申シマシタヤウニ取締ガ出來ナイ、隨テ不權衡ノ結果ヲ來スト云フコトモ重大ナル問題デアリマスガ、今申シマシタヤウナコトモ是モ一ツノ理由ト思フノデアリマス〇丹下委員更ニ疑問ヲ増シマシタ譯デアリマス、不公平デアルカラ其調和圖ル必要ガアルト云フ御話デアリマス

ス、一體自作農地ヲ買入レタイト思フ
ヤウナ者ハ、悉ク政府ノ維持資金ヲ利
用シナケレバナラヌ立場ニ在ル者バカ
リデアリマス、ソレガ政府ノ其資金ガ
潤澤ニ間ニ合ハナイカラ、已ムヲ得ズ
他ノ方面カラ相當高イ利子デ借入レ
或ハ地主ニ年賦契約デ買入レル、私ガ
自己資金ト云フコトヲ申シマシタノハ
自分ノ金バカリデナイ、他ノ借入等ヲ
モ云フタノデ、政府ノ低利資金ヲ融通
シテ買フ者以外ハ、悉ク金持ガ自分ノ
金デ土地ヲ買フ如ク見テ居ラレルト大
變ナ間違デアリマス、自分ノ資力ガ潤
澤ニアツテ自作地ヲ買フト云フ者ハ極
メテ少ナイ、殆ド無イト言ッテ差支ナ
イ、幸ニ政府ノ低利資金ノ融通ガ出來ル
ナラバ、恐ラク悉ク此融通ニ俟ッテ初々
テ自作地ヲ買フコトニナルト思フノデ
アリマス、ソレガ出來ナイカラ、外ノ方
デ資金ヲ借受ケテ自作地ヲ買入レル、
其資金ヲ受ケテ居ル者ニハ登録税ヲ取
ルガ、政府ノ出ス低利資金ヲ借リタ者
ハ登録税ヲ取ラナイ、是ガ不公平デハ
ナイカト思フ、此點ニ對シマシテハ、政
府トシテハモウ少シ御調査ニナラナケ
レバナラナイト思フノデアリマス、ソ
レダケノコトヲ特ニ申上ゲテ置キマ
ス、ソレカラ更ニモウ一ツ御尋致シタ
イノハ產印紙稅法ノ問題デアリマス、
印紙稅法ノ第四條ノ第十號ニ、產業組
合又ハ產業組合聯合會ノ發スル貯金證書
ニハ收入印紙ヲ貼ルコトニナツテ居

ソレカラ第五條ノ第六號ニ於キマシテ、貯金ノ通帳ニハ免除サレテ居ル、是ハ甚ダ矛盾デハナカラウカト思フ、產業組合ノ諸證書ニ對シテ印紙ノ免除ヲ唆々ヲ費ス必要ハアリマセヌ、既ニ產業組合ノ諸證書ニ對シテ印紙ノ免除ヲシテ貰ヒタイト云フコトハ、產業組合界多年ノ要望デアリマス、此度貯金通帳ト云フモノハ免除サレルコトニナタ以上ハ、何ガ故ニ一步進メテ貯金證券書ニ對シテモ同ジャウニ收入印紙貼付ノ免除ヲシナイカ、ソレカラ又産業組合ノ發シマスルト出資證券、此出資證券ニ對シテハ此度免稅サレタノデアル、然ルニ産業組合聯合會或ハ重要輸出品組合聯合會、又ハ輸出組合等ノ是等ノ出資證券ニ對シテハ課稅スルコトニナツテ居ル、是モ矢張同ジ意味同ジアリ、針ニ依テ、共ニ免除スルノガ當然デアラウト思フノデアリマス、之ニ對シマシテ政府ノ御所見ヲ伺ッテ見タイノデアリマス

ニシテ免稅ヲ致シタノデアリマスカラ、貯金證書ノ方ニナリマスルト、丁度銀行ノ定期預金證書ト云フヤウナモノ額ニナル、隨分產業組合モ相當大ナル金ノ預金證書ニナッテ居ルモノモアルヤウナ事情ニアルノデアリマシテ、若シ之ヲ他ノ關係カラ致シマシテモ、負擔シ輕減スル、殊ニ斯様ナ免稅ヲ致シマスニハ、一般ノ關係カラ見マシテ特ニ或ル目的ノ爲ニ必要デアルト云フモノデナケレバ、ドウモ無暗ニ免稅ヲスルト云フト負擔ノ權衡ヲ失スルノデアリマス、一般ノ他トノ權衡モ考ヘマシテ、貯蓄銀行ト同ジヤウナ此零細ナ預金ヲ受入レルモノニ對シテハ免稅シタノデアリマス、又小貯金ニ對シマシテモ大體同ジデアリマス、小貯金ハ產業組合、住宅組合ノ小貯金ニ免除致シタガ、產業組合聯合組合ト云フヤウナモノハ、名前ハ組合カラノ出資デアリマシテ、相當負擔カモ出來テ居ルノデアリマス、零細ノ詰リ出資ト云フモノデモナイノデアリマス、是等ハ他トノ權衡上カラ見マシテモ免稅シナイ方ガ適當デアルト云フ風ニ考ヘマシタ〇丹下委員 大體ノ御説明ヲ承リマシタガ、私ハドウモ今ノ御説明デハ了解致シマセヌ、此證書トカ通帳トカ云フコトハ、名稱ニ依テ扱フノカ、實質ニ依テ取扱フノカ、今ノ御説明ノヤウナヨトデアリマスレバ、例ヘバ定期積金證

書ト云フヤウナモノガアツテ、所謂產業組合ノ零細ナ積金ヲ致シテ居ルモノガアル、即チ或ル一定ノ年度ニ於テ相當ナル額ニ達スル積金ノ證書等ヲ披ツテ居ルコトガアル、併シ之ヲ今御話ノ如キ定期積金通帳ト云フコトニ變ヘレバ免稅サレルノデアル、單ニ此名稱ニ依リマシテサウ云フ分類ヲサレルノデアルカ、或ハ實際其金額ガ多イカラ、少イカラト云フコトニナリマスト、是ハ中中ムヅカシイ問題デアラウト思ヒマス、貯金ト云フモノハ勿論零細ナ積金モ、ソレカラニ相違ナイケレドモ、併シ組合員ハ大體ニ於テハ此貯蓄的預金モ、ソレカラ金融的ノ預金モ、矢張此貯金ニ入レテ居ルノデアリマス、隨テ貯金通帳ト云フコトニ區分ヲサシテ居リマスモノニモ、相當ノ大キナ額モアリ、又定期貯金ト云ッテモ極メテ零細ナル定期貯金モアル、故ニ今ノ御説明カラ考ヘテ見マヌト云フト、到底其區別ヲスルコトガ適當出來ヌ、故ニ寧ロ此事業ノ發達ヲ圖リ、營利ヲ目的トセザル所ノ法人トシテ取扱ヒ、總テ免除スルト云フコトガ適當デハナイカト思フノデアリマス、此點ニ付キマシテ尙ホ御尋ヲ致シテ置キマス

マシテ、貯金通帳ト申シマスレバ、大體ニ於キマシテ零細ノ資金ヲ受入レ或ハ度受入レテ又度ミ引出シ得ル所ノモノヲ貯金通帳ト考ヘテ居リマス、成程貯金通帳ヲ以テ取引ヲ致ス場合ニ於キマシテ、隨分多額ノモノモアリ得ルカト考ヘルノデアリマスガ、大體ニ於キマシテ、是ハ貯蓄銀行ニ致シマシテモ、産業組合ニ致シマシテモ、極ク零細ノ金ヲ或ハ毎日或ハ毎月之ヲ預ケテ行キ、必要ノ時ニソレカラ引出スト云フ風ナ性質ノモノデアラウト思フノデアリマスカラ、大體ハ是ハ零細ノモノト考ヘマシテ免稅致シタノデアリマス、此證書ノ方ニナリマスト云フト、兎ニ角チヤント纏ツタ金ヲ之ヲ一枚ノ證書ニ記載シマシテ、一定ノ利子ノ契約ニ基イテ拵ヘルノデアリマス、勿論是ハ非常ニ多額ノ場合モアラウト思ヒマス、兎ニ角額ノ場合モアラウト思ヒマス、證書ニ纏ツタモノガ、證書ニ纏ツタルノガ普通ノ状態デアリマス、ソレ故ニ是ハ定期預金ト同ジャウナ權衡カラ致シマシテ、之ヲ免稅致サナカッタヤウナ次第デアリマス

モノデアル、ソレハ勿論貯蓄ノ趣旨モ
勿論アリマスケレドモ、常ニ出シ入レ
ヲシテ居ルモノデアリマシテ、他ノ貯
蓄銀行ノ貯蓄預金ト趣ヲ異ニシテ居リ
マス、故ニ先程申上グタヤウニ、一方月
掛十錢或ハ五錢トカ云フヤウナ細カイ定
期ノ積金ヲシテ居ルヤウナモノモ、今マ
デ定期積金證書トシテ預ツテ居ルト思
フ、是等ハ今ノ御話カラ行ケバ、將來定
期積金通帳ト云フコトニ變ツテ來レバ、
自然免稅サレルコトニナル、是等ニ對
シマシテ十分御考慮ヲ願ツテ置キタイ、
出來ルナラバ此證書ニハ總テ免稅スル
ト云フコトニ改メラレンコトヲ茲ニ希
望シテ置キマス、更ニモウ一ツ御尋致シ
タイコトハ、關稅定率法ノ改正ノ事デ
アリマス、前議會ニ於キマシテ關稅定
率法ノ改正ガ可ナリ重大ナル問題トシ
テ論議サレタノデアリマス、其中ニモ
相當修正ヲ必要ト認メタモノガアッタ
ノデアリマス、所謂農產物ノ中ノ三目
ヲ初メ其他二十餘目ニ瓦リマシテ、多
數ノ意見ガ修正スペキモノト云フコト
ニナツタノデアリマス、然ルニ此度ノ改
正ニ於テ見マスルト云フト、僅ニ砂糖
ト酸化「コバルト」ノ二品種ノ改正デア
リマシテ、他ノ二十餘目ノモノハ遂ニ
其儘ニナツテ居ルノデアリマス、吾ミノ
前議會ニ主張致シマシタ他ノ二十數箇
目ノ修正ハ、前議會ニ於ケル多數ノ意
見ノ一致シタモノデアリマシタ、併ナ

ガラ衆議院ニ於テ萬一多岐ニ瓦ル修正ヲ見タ場合ニ於テハ、更ニ又貴族院ニ於テモ相當ニ同様ノ手段ニ出ラレルカモ知レス、サウスルト云フト會期ガ切迫シテ居ルカラ、折角ノ提案ガ遂ニ決議ヲ見ルニ至ラヌヤウナコトニナルト遺憾デアルカラ、兎ニ角此關稅常設委員會ヲ設ケテ、其審議ヲ俟ツテ來ルベキ議會ニ提案スルト云フ意味デアッタ、所謂アノ儘——一部ノ小麥、小麥粉、大豆等ノ三目ヲ除クノ外ハ、政府ハ哀訴嘆願シテ延期シテ貰ッタモノデアッタ、サウシテ關稅常設委員會ニ付スルコトヲ條件トシテ切抜ケラレタノデアリマス、ソレデ片岡藏相ハ大體調ノ濟ンダモノカラ提出スル、酸化「コバルト」ノ事デアリマシタカ、生産ガ無クナッタモノデアルカラ、虛心坦懷ニ出シタト云フ御説デアリマシタガ、果シテ然ラバ他ノ二十有餘ノ品目ハ如何ニナッテ居ルノデアルカ、此關稅常設調查委員會デ調査ノ結果修正ノ必要ナシト云フコトニ決シタノデアルカ、若シサウ云フコトデアリマスト云フト、彼ノ時ノ空氣ハ是ハ諄ク申上ゲルヤウデアリマスガ、多數ノ一致シタ意見デアッテ、ソレヲ調査會ニ掛ケテ來年出スト云フコトヲ聲明サレテ居ル、而モ此度二品種限ツテ提案サレ、後ハ何等ソレニ對スル修正廢止ノ手段ニ出テ居ナイ、丁度義務教育費一千萬圓増サウト云フコトヲ公約シテ置イテ五百萬圓シカ出サヌト同

ジャウニ、二十有餘種ヲ改正スルト言
フテ二種類ニ止ヌタト云フコトハ、共
ニ「ペテン」ニ掛ケタト同様ナコトト思
フ、此點ニ付テハ、大藏大臣ハ御出デニ
ナリマセヌガ、政府委員ヨリ虚心坦懐
ニ一ツ詳シク説明シテ戴キタイノデア
リマス、殊ニ他ノ品目ニ付キマシテハ
更ニ他ノ方ニ譲ッテ、私ハ輸出工業品ノ
發達ノ上ニ於テ陶磁器ノ原料デアル金
液、俗ニ言フ水金、此水金ト酸化「コバ
ルト」ノ二種類ニ付テハ、昨年極力削除
ヲ力説シタモノニアリマス、幸ニシテ
酸化「コバルト」ニ付テハ此度削除セラ
ルルコトニナツテ、所謂虛心坦懐ニ削除
サレタノデアリマス、併シ是ハ一年前
ニ既ニ吾ミハ主張シテ居ツタ、漸ク常設
委員會ヲ置イテ一箇年間苦心慘憺シテ
調ベラレテ削除シタト云フオ話デアリ
マスガ、吾ミハ一年前カラ分リ切ツテ居
ル、之ヲ他ノ方面カラ言ヒマスレバ、餘
リニ政府ガ固執シタ爲メ當業者ハ一箇
年非常ニ迷惑ヲ蒙ツタト云フコトニナツ
テ居ルノデアル、更ニモウ一つノ金液、
即チ水金ニ付テハ、政府ハドウ云フ見
解ヲ持ツテ居ルカト云フコトヲ承リタ
イ、金液ハ申上グルマデモナク、主トシテ
輸出陶磁器ニ加工スル原料トシテ缺ク
ベカラザルモノデアル、我國ニ於キマ
シテハ最近ノ統計ヲ見マセヌガ、約八
十萬圓バカリ消費シテ居リマスケレド
モ、内地ノ製產ハ其十分ノ一シカナイ、
而モ其品質ヲ比べテ見マスレバ、著色

ノ火度ニ於テモ、或ハ粘著力ニ於テモ、色澤ニ於テモ、亦能率ニ於テモ非常ニ
差ガアルノデアリマス、到底比較ニナ
ラナイ、隨テ内地產ノ金液ヲ用ヒマシ
タモノハ、輸出貿易ノ上ニ於テモ非常ニ
不利ヲ來シテ居ルノデアリマス、政府
ハ常ニ貿易ノ發達ヲ圖リ輸出ヲ獎勵ス
ルコトニ力ヲ用ヒテ居ルト言ハレマス
ケレドモ、併ナガラ此金液ノ如キモノ
ハ、政府ハ確ニ輸出貿易ヲ寧ロ阻害シ
テ居ルヤウナ結果ニナリハセヌカト思
フ、是ガ爲ニ當業者ハ非常ナ迷惑ヲ感
ジテ居ルノデアリマス、詰リ此金液ノ
輸入ハ、是ハ輸出品ノ加工原料デアリ
マシテ、成ベク優良ナ品物ヲ安ク當業
者ニ供給シテ、サウシテ輸出品ヲ成ベ
ク低廉ニ出スト云フコトヲ考ヘナケレ
バ、輸出ノ獎勵ニナルマイト、私ハ思フ
ノデアリマス、現在ニ於テハ課稅ノ結
果原料ガ高イカラ勢ヒ輸出品ガ高クナ
ツテ貿易ノ上ニ不利益デアルト云フコト
トハ申スマデモナイ、是ハ國家ノ爲ニ
考ヘナケレバナラヌコトト思フ、此金
液問題ニ付テハ昨年モ色々述べタコト
デアリマス、私共ハ御承知ノ通リ愛知
県ニ於ケル瀬戸、及ビ其附近ノ町村數
箇町村ヲ合セテ陶磁器ノ原產地ヲ持
テ居リマス、又名古屋市ハ御承知ノ通
リ輸出陶器ノ非常ニ盛ンナ土地デアリ
マシテ、昨年モ此問題ニハ非常ニ努力
シテ居ルノデアリマス、而シテ名古屋
市ニ於テ只今僅少ナル製產ヲシテ居ル

者ガアル、是ハ何等カ政府ニ運動ヲシテ加ヘテ費ヲタト云フヤウナ、巷間ニハ色ミナ風説ガアリマス、是非トモ金液モ本年ニ於テハ削除スルコトニシナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、之ニ就キマシテ調査ノ結果ナリ現在ノ我國ニ於ケル金液ノ產額、輸入品トノ比較問題、其他ドウシテモ之ヲ削除スルコトノ出來ナイ理由ガアレバソレヲ詳細承ツテ見タイト思フノデアリマス

ト云フヤウナモノヲ固執シテ居ルコト
ハ少シモナイコトヲ十分御了承ヲ願ヒ
タイノデアリマス、然ルニ他ノ品目ニ
付キ一向今回提案ガナイ、衆議院デ希
望決議シタモノヲ、調査會ニ掛ケテ之
ガ改正案ヲ次期議會ニ出セト云フ趣意
デアツタト云フコトデアリマスガ、私共
ハ左様ニ承知シテ居ラヌノデアリマシ
テ、是ガ調査委員會ガ十分ニ考究シテ
改正スペキモノガアツタラ、之ヲ他日次
期議會ニ提案スルヤウニト云フ御趣意
デアツタラウト考ヘテ居ルノデアリマ
ス、併シソレハ何レニ致シマシテモ、兎
ニ角委員會ニ於キマシテ十分考究シ
提案ヲシ直シタイト云フ考ヲ持ッテ居
出来ルダケ早ク其結果ヲ得マシテ、若
シ直スモノデアルナラバ、一日モ早ク
ノカト云フコトデアリマスガ、調査委
員會ニ於テ是等ノ品目ニ付キ、或モノ
ニ付テハ委員會ノ決議ヲ經タモノモア
リマス、是ガ今日ノ状況ニ於テハ、五
一議會ヲ通過シテ施行サレテ居ル現行
ノ關稅率ヲ据置クコトハ適當デアル、
併シ尙ホ將來ニ於テ調査考究ヲ重ネル
ガ、現在ニ於テハ此儘ニシテ置クガ宜
モノハ据置キマシタガ、是ハ或ハ關稅
ガ問題ニナリマシタ時ニ御要求ニ依

テ御説明ヲ申上ゲタイト考ヘテ居ツタ
ノデアリマス、ソレ等ノ品目ハ——衆
議院デナカツタカト思ヒマスガ、貴族
院ノ御希望デ小麥ガ据置デアツタト思
ヒマス、ソレカラ魚介類、生絲、印刷抄
紙、鳥獸肉、是等ノモノニ付キマシテハ
据置クト云フ決議ニ委員會デナツテ居
ルノデアリマス、其以外ノモノニ付キ
マシテハ、委員會ガ幹事ニ於テ十分研
究シテ一應ノ案ヲ作ツテ委員會ニ提案
ヲスルヤウニト云フ御希望デアリマシ
テ、所謂幹事會ニ於テ研究シテ相當成
案ヲ得テ居ルモノモアリマスガ、未ダ
委員會ノ承認ヲ得テ居ラヌト云フ狀況
デアリマス、其中酸化「コバルト」ニ付
キマシテハ、大藏大臣モ答辯致シマシ
タ通り、生産ガ出來テ參ツテ、即チ含銅
硫化鐵礦カラ生産スルト云フコトガ出
來ル、ソレ故ニ之ヲ保護シテ内地ニ於
テ之ガ生産ヲ見タイト云フノデ適當ナ
方法ヲ設ケタノデアリマスガ、ソレモ
御手許ニ差上ゲマシタ表ニモアリマス
通リ價格ガ非常ニ下ッテ參ツテ、到底引
合ハナイト云フノデ、昨年ノ九月以來
之ヲ廢止致シマシテ、當分生産ノ途ガ
再ビ無クナツタノデアリマスカラ、寧ロ
内地デ生産サレヌノヲ稅率ヲ設ケテ置
イテモ、出來ナイモノナラバ寧ロ廢止ス
ルガ適當ダト云フノデ廢シタノデアリ
マス、海外ノ市場ノ狀況カラ致シマシ
テ價格ガ非常ニ下落シタ結果左様ニナ
ツタ次第デアリマス、酸化「コバルト」

ニ付キマシテ、一年間當業者ガ非常ニ迷惑ヲシタト云フ御話デアリマスガ、是ハ實際ニ於テハ私ハ左程迷惑ニナッテ居ラナカッタト云フ風ニ考ヘテ居リマス、ソレハ價格ニ於テ其以前ヨリ下落シテ居リマスシ、又輸出品ニ付キマシテハ、酸化「コバルト」ノ使用ニ對シテ戻稅ヲスルト云フ制度ニ改メタノデアリマス、稅ハ戻サレル、サウシテ價格ガ安クナルト云フノデアリマスカラ、ソレ程當業者ノ迷惑ニハナラナカッタラウカト考ヘマス、是ハ吾ミノ觀察デアリマス、強テ申上グル譯デハアリマセヌ、金液ニ付キマシテハ、只今幹事會ニ於テ幾度カ調査ヲ繰返シテ居ルノデアリマス、御話ノヤウニ名古屋ニ於テ生産ガアル、其生産サレル品物ガ、或ハ工程ノ程率ノ上カラ見テモ、或ハ色澤ノ上カラ見テモ、或ハ附著ノ上カラ見テモ、劣ッテ居ルト云フ風ナ批評ハ屢耳ニスル所デアリマス、果シテ内地デ出来ル品物ガ外國カラ來ル製品ニ對シテ劣ッテ居ルカ、到底競爭ハ出來ナイモノカドウカト云フ風ナ事ニ付キマシテハ、十分ニ講究ヲシナケレバナラヌト考ヘマシテ、慎重ニ調查シテ居ルノデアリマス、現ニ本年ニナリマシテモ、是等製品ニ付テ嚴密ニ試験ヲシテ居ルノデアリマス、御述ベニナリマシタヤウナ缺點ト云フモノハ、以前ハサウ云フコトモアツタヤウニ吾ミモ聞イテ居リマシタ、併シソレハ以前デアリマシテ、昨年

タコトガアルト聞イテ居ルノデアリマス、是ハ技術者モ一旦外國ヘ參リマシテ色ニ事情ヲ調査シテ、サウシテ歸テ更ニ種々改良ヲ加ヘテ、出來タ所ノ製品、其製品ニ付テ嚴密ニ調査ヲ致シタルノデアリマス、其結果ハ數日前ニ吾ニハ報告ヲ聞キマシタガ、ソレニ依テ尙ホ考究ヲシナケレバナラヌト云フノデ、只今相談ヲ致シテ居ル次第デアリマスガ、其結果ニ依リマスト、外國カラ參リマスル所謂「ハーノービア」ノ製品ニ較ベテ、以前ノ缺點ノアッタ點ハ除カレタ、成績ノ上カラ見マシテ、寧ロ或點ニ於テハ優ツテ居ル點モアルヤウデアリマス大體「ハーノービア」ノ製品ト毫モ遜色ガナ、イト云フ、結論ニナツテ居ルヤウデアリマス、併シ其試験ノ製品ガ何處ノ製品デアルカト云フコトニ付テ、サウシテ京都ノ陶器試験場ニ於キマシテ實際色ニ試験ヲ致シマシタノデアリマス、或ハ伸ビノ點デアルトカ、或ハ色澤ノ點デアルトカ、或ハ燒付ノ點デアルトカ、或ハ滲出スカドウカト云フヤウニ、色ニナ點ニ付テ試験ヲ致シタノデアリマスガ、其結果ハ只今御述べニナリマシタヤウニ、以前ニ幾分カサウ云フ缺點モアツタヤウナ點ガ改良ナイト云フ風ナ品物ガ得ラレルヤウニモ遜色ガナイト云フ風ナ、區別ガ出來サレマシテ、或點ニ於テハ寧ロ優ルトモ遜色ガナイト云フ風ナ、區別ガ出來ナイト云フ風ナ品物ガ得ラレルヤウニナツタヤウニ聞イテ居ル、ソレ故ニ十分

ニ其結果ニ鑑ミマシテ、如何ニ之ヲシタラ宜イモノデアルカト云フコトヲ考究致シマシテ委員會ノ議ニ付シタイト云フ考ヲ持ツテ調査致シテ居リマス、是等ノ結果ノ詳細ガ必要デアリマスレバ、今日ハ實ハ其報告書ヲ持ツテ居リマスカラ、次ノ會ニ於テ若シ御必要ガアリマスレバ、ドウ云フ點ガ優ツテ居ル、又ドウ云フ點ニ特色ガアルト云フ風ナコトヲ、詳細ニ申上ゲテモ宜イト考ヘマス、大體サウ云フ風ナ事情デアリマシテ、研究ヲ盡シテ委員會ニ付シテ適當ナ決定ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

○丹下委員 只今縷々御説明デアリマ

シタガ、要スルニ昨年關稅定率法改正

ノ時二十何箇目ノ修正ト云フコト

ハ、其時ノ空氣カラ見テ斯ノ如ク修正

サレタモノデアッタノデス、然ルニ政府

ノ便宜ノ爲ニ特ニ調査會ニ掛ケテ來年

度出スト云フコトデアッテ、必ズ全部ヲ

修正スルト云フコトヲ答ヘラレタノデ

ハナイケレドモ、併シソレガ爲ニアノ

シタノデアルノデアッテ、ドウシテモ今年

何トカ始末ヲ着ケナケレバナラヌ譯デ

アル、而モ一箇年間委員會ガ出來テ、今

承ルトマダ政府ノ方デモ金液ノ比較ガ

十分ニ著イテ居ナイ、調査未了デアル、

隨テマダ委員會ニ掛ケテ居ナイト云フ

風ニ聞イテ居リマス、當業者ハ實際ニ

毎日實際ニ當ツテ試験シテ居ル、而モ其

品物ノ優劣ガ判明シテ居ルノミナラ

ズ、内地ニ於ケル產額ハ微々タルモノ

デアル、到底其需要ヲ滿タスコトガ出

來ナイ、隨ツテ輸入品ニ仰グ、其輸入品

ニ課稅サレルト云フコトデアリマスカ

ラ、勢ヒ貿易ニ關係フルコトハ當然

デアリマス、只今承ルガ如ク試験シタ

程度モ判然シナイ、又今ドウシタラ宜

イカトモ分ラナイト云フヤウナ事ナラ

バ、寧ロ此際是ハ削除シテ、改メテ相當

產額ガ出來テ、内地デ生產ヲ十分ニサ

レル時期ニ於テ課稅スルノガ適當デア

ラウト思フ、是ダケノ事ヲ特ニ申上ゲ

テ打切リマス、尙ホ先程產業組合及住

宅組合ガ其組合員ニ供給スル土地及住

宅ノ登錄稅免除ト、其目的ノ爲ニ是等

ノ組合ガ取得スル場合ニ於ケル登錄稅

ノコトヲ、農林省當局ノ御意見ヲ承ッテ

見タイト云フコトヲ申シマシタガ、幸

ヒ今小山次官モ出ラレマシタヤウデア

リマスカラ、其點ニ付テ農林省ハ一體

ドウ云フ考ヲ持ツテ居ルカ、是デ果シテ

宜イノデアルカ、併セテ印紙稅ノ問題

ニ付キマシテモ、同ジク御見意ヲ承ッテ

見タイト思ヒマス

○黒田政府委員 金液ニ付テ未ダ其成

績モ分ラナイト云フヤウナ事情デアル

ナラバ、速ニ之ヲ撤廢シタ方ガ宜イデ

ナイカト云フ最後ニ御言葉ガアリマシ

タノデ、私ノ申上ゲル事ガ未ダ御了解

ヲ得テ居ラヌカト考ヘマスルノデ、重

ネテ簡單ニ申上ゲマスガ、金液ニ付テ

ハ、先程申上ゲタ通リ兎ニ角内地デ生

産ガ出來テ、若シ之ヲ撤廢フ致シマス

申上ゲタ次第デアリマス、未ダ十分市

場ニ供給ガナイト云フコトデアリマス

ガ、良イ品物ハ昨今市場ニ出初メタ位

ニヤウニ承知シテ居ルノデアリマス、

ソレハ成程今迄ハ其品物ハ餘り出テ居

ラナカツタカト思ヒマス、併シ改良シテ

テ急慢ト云フヤウナ次第デアリマシテ、私

ガ幹事デアリマスガ、決シテ幹事ニ於

テ急慢ト云フヤウナ譯デハアリマセ

ヌ、此點ハドウゾ御了承ヲ願ヒマス

○小山政府委員 丹下君ノ御質問ハド

ウ云フ趣旨デアリマシタカ、大概御推

察致シマスカラ其程度デ申上ゲマス、

若シ私ノ斯ウ云フ點ヲ御質問ニナツタ

ノデアラウト推察致シマシタ點ニ相違

ガアリマシタラ、重ネテ御問ヲ願ヒマ

ス、大體此點ダト考ヘマス所カラ申上

ゲマス、登錄稅及印紙稅改正ノ要項ノ事

ニ付テハ、其主管デアリマス大藏大臣

カラ國民負擔ノ均衡竝社會上、經濟

上、成ベク社會政策的ノ効果ヲ擧ゲル

コトニ努メル、併ナガラ稅務行政實行

上ノ便宜モ計ツテ、官民相互ノ手數ヲ省

略スルト云フコトモ含マレテ居ルト云

フヤウニ御説明ニナツタ記憶致シテ

居リマスガ、此趣旨ニ依リマシテ登録

稅ノ改正ニ付テハ、產業組合ノ意義目

的ガドウ云フ所ニアルカト云フコトヲ

皆様ニ申上ダマセヌデモ、既ニ御了承通リデアリマシテ、所謂社會政策的見地ノ上カラ、今回ノ改正ニ付テハ其趣旨ヲ達シタイト考ヘルト同時ニ、五一議會ニ於テキマシテ議會ノ御協賛ヲ經マシテ、產業組合法中改正法律案ソレヲ提議ヲ致シマシタ當時ニ於テ、產業組合ノ趣旨ヲ達スルヤウニ法律改正ノ御協賛ヲ得マシテ、隨ツテ此御趣旨ニ基イテ、地方稅ニ於キマシテハ免除モセラレルヤウニナリマシタコトハ御承知ノ通リデアリマス、此故ニ一面ニ於テ地方稅ヲ免除スル、而シテ國稅ニ於テ更ニ之ヲ課稅スルト云フコトニナリマスレバ、其間ニ矛盾ノ生ズルト云フコトハ申スマデモアリマセヌ、過去ニ於テハ登錄稅ハ二重課稅ヲサレテ居ツタノデアリマスコトハ、丹下君御承知ノ通リデアリマス、洵ニ不合理千萬ナ事デアルト思ヒマスカラ、合議ヲ致シマス大藏省竝司法省方面トモ篤ト協議ヲ重ネマシテ、而シテ慎重ニ審議ヲ致シマシタ結果、第一次第二次ノ二重課稅ニ付テハ如何ニモ合理的デナイト云フ所カラ、其二重課稅ヲ省クコトニ致シテアリマスヤウナ方針ニ改メシタノデアリマス、住宅組合及其住宅ノ取得ニ對シマシテハ、出來ルダケ便宜ヲ圖リ、社會政策ノ趣旨ニ副フヤウニ致シテアリマス、大體政府案トシテ提出ト云フコトデ努メテ居ル次第デアリマスガ、過去ノ事カラ見マスレバ、一段ノ

改正ヲ加ヘマシタ事デアリマス、其際
ハ三省合議ノ上其程度ニ於テ、政府案
トシテ提出スルト云フコトニ議ヲ纏メ
マシタヤウナ次第デアリマス、尙ホ印
紙稅ノコトデアリマスガ、此印紙稅ノ
コトハ、只今大藏省ノ政府委員カラ段
段御説明ヲ申上ゲタ通りデアリマシ
テ、御了承ニナリマシタコトト思ヒマ
スガ、是ハ登錄稅ノ場合ニモ申上ゲタ
ヤウナ趣旨ニ於テ、農村當局ト致シマ
シテハ、此機會ニ過去ノ色々不不便トシ
不合理ト致シマシタ所ノ趣旨ヲ達スル
爲ニ努力ヲ致シマシテ、今回ノ改正ヲ
見タ次第デアリマスガ、先刻出資條件
ノ事ニ付テノ御尋ガアツタヤウデアリ
マスガ、是ハ大藏省政府委員カラモ御
説明致サレマシタ通リ「組合ニ在リテ
ハ五十圓、聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ
超ユルコトヲ得ス」ト云フ規定ガアリ
マスノデ、其少額ノモノニ對シテハ先
刻御答辯申上ゲタ通りデアリマスカ
ラ、先ヅ此程度デ宜カラウト云フコト
デ、印紙稅モ只今申上ゲマスヤウニ、從
來ヨリハ余程改善サレタ、即チ社會政
策ノ意味ニ於テ改善サレタモノト認メ
テ居ルノデアリマス、私ノ御答辯申上
點ヲ申シマスレバ、右ニテ御質問ノ趣
旨ニ副ビハシナイカト思ヒマス、尙ホ
ドウカ知レマセヌガ、推察致シマシタ
マシタヤウナ次第デアリマス、尙ホ印
紙稅ノコトデアリマスガ、此印紙稅ノ
コトハ、只今大藏省ノ政府委員カラ段
段御説明ヲ申上ゲタ通りリデアリマシ
テ、御了承ニナリマシタコトト思ヒマ
スガ、是ハ登錄稅ノ場合ニモ申上ゲタ
ヤウナ趣旨ニ於テ、農村當局ト致シマ
シテハ、此機會ニ過去ノ色々不不便トシ
不合理ト致シマシタ所ノ趣旨ヲ達スル
爲ニ努力ヲ致シマシテ、今回ノ改正ヲ
見タ次第デアリマスガ、先刻出資條件
ノ事ニ付テノ御尋ガアツタヤウデアリ
マスガ、是ハ大藏省政府委員カラモ御
説明致サレマシタ通リ「組合ニ在リテ
ハ五十圓、聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ
超ユルコトヲ得ス」ト云フ規定ガアリ
マスノデ、其少額ノモノニ對シテハ先
刻御答辯申上ゲタ通りリデアリマスカ
ラ、先ヅ此程度デ宜カラウト云フコト
デ、印紙稅モ只今申上ゲマスヤウニ、從
來ヨリハ余程改善サレタ、即チ社會政
策ノ意味ニ於テ改善サレタモノト認メ
テ居ルノデアリマス、私ノ御答辯申上
點ヲ申シマスレバ、右ニテ御質問ノ趣
旨ニ副ビハシナイカト思ヒマス、尙ホ

○丹下委員 幸ヒ農林次官ハ出席デア
リマスカラ、御足止メヲセヌヤウニ少
シ懸離レテ居リマスヤウデスガ、大藏トマ
農林ノ兩方ニ付テ御尋シタイト思ヒマ
ス、只今丹下君ノ御質問中ニモアッタヤ
ウニ、自作農創定維持ニ付テデアリマ
スガ、表面高調力説セラレテ居ル割合
ニ其精神ニ於テ熱心ノ度ガ缺ケテ居ル
ト云フコトヲ、事實ニ於テ認メルノヲ
遺憾トスルノデアリマス、近頃ノ施設
ノ中デモ國有財產ヲ整理シテ之ニ依
テ額ノ收入ヲ御上ゲニナラウト云フ、
即チ今マデ捨テ置イタモノカラ金ヲ掘
出スト云フコトハ、國家ノ爲ニ洵ニ結
構ナ事デアル、併ナガラ金ヲ掘出ナウ
ト云フコトニミ努メテ、其結果產業
上ドウ云フ關係ニナッテ居ルカ、自作農
創定ノ一方ニ目論見デ、一方ニ於テ自
作農ヲ苦メルヤウナ事實ノアルコトハ、
是ハ例ヘバ雜種地ノ整理ニ於キマシ
テ、從來殊ニ甚シイモノトシテ見テ居
ルノハ、河川ノ敷地ニナッテ居ル部分デ
アリマス、例ヘバ川成、湖水成ト云フヤ
ウナ所デアリマスガ、斯ウ云フ土此ガ
幾十年間河川ノ敷地ニナッテ居ル、併ナ
ガラ山間僻地殊ニ耕地ノ少ナイ所ノ農
家デアリマスガ、斯ウ云フ所ノ川成地

テ居リマス、然ルニ斯ウ云フ高イ評價ヲ御付ケニナルト云フノハドウ云フコトデアルカ、斯ウ云フ實例ガアリマス、再三再四交渉ノ結果、三百圓前後ニナッタヤウニ近頃聞イテ居リマスケレドモ、最初今申シタヤウナ標準デ拂下ヲシャウト云フコトヲ當局ニ於テハ企テラレタ、言フマデモナク山間僻地ニ於テ、殊ニ川成地ナドヲ開墾シテ田地ヲ起サウナドト云フ者ハ、最モ貧弱ナ階級ノ者デ、斯ウ云フ河川ノ危險ヲ冒シテマデヤラウト云フ者ハ、耕地ヲ他ニ求メラレヌカラデアルト思フ、ソレニ對シテ斯様ナ過重ナル負担ヲ負ハシムルト云フコトハ、自作農創定ノ意思ニ合致シナイト云フコトハ分リ切ッタコトデアル、寧ロ自作農ヲ法律ヲ盾トシテ苛酷ナル取扱ヲスルト云フコトニナルト思フ、實際ニ於テ私ノ附近ノ部落ノ如キ、僅ニ數十戸ノ所デ一萬圓内外ノ負担ヲスルト云フコトデ、青息吐息デ居ル所ガアル、年賦償還ニシテ貰ヒタikt云フト、サウ云フ方法ハ無イト云フコトデ之ヲ跳付ケテ、オ前ガ拂下ヲ受ケナケレバ競買ヲスルト云ウテ押付ケラレテ居ル、是ハ一例デアリマスケレドモ、斯ウ云フ例ガ山形縣ナドニ非常ニ多イ、恐ラク秋田縣、福島縣アタリニモ多イダラウト思ヒマス、關西方面ハ農家ノ智識ノ程度ガ進ンデ居ルカラ、斯ウ云フ種類ノ雜種地ハ無イト云フコトヲ聞イテ居リマス、然ルニ東北ニハ斯ウ云フ例

ガ多イノデアリマス、私ハ農林當局ガ熱心ニ自作農維持創定ヲ爲サルコトニ御努力ヲナサツテ居ル時ニ、斯フ云フ事ナイ所ニ斯ウ云フ事實ガアルト云フコトガオ分リニナツテ居ナイダラウト思フ、斯フスウ云フ事實ガアルトスレバ、法令ハ如何ニアツテモ、斯ウ云フ事實ハ昭代ノ不詳事デアルカラ、如何ナル方法ヲ執ツテモ之ヲ防止シナケレバナラヌ、斯ウ云フ御考ヘガアルカ無イカト云フコトヲ農林當局ニ伺ツテ、更ニ大藏當局ハ之ニ對シテドウ云フ御考ガアルカト云フコトヲ承リタイト思ヒマス

○小山政府委員　自作農創定維持ニ付キマシテハ、私ガ申スマデモナイコトデアリマスガ、農村ニ於ケル社會問題ノ解決ノ一端ニ資シ、合セテ一方食糧政策上ノ重大ナル關係ヲ持チマスル事柄ニ付テ、多年朝野ノ間ニ唱ヘラレテ居リマシタモノガ、其實現ヲ見ザルコトヲ甚ダ遺憾トシテ、五十一議會ニ於テ此創定維持ニ關シマスル豫算ヲ提出シテ御協賛ヲ得マシタ、即チ昨年御協賛ヲ得マシタモノガ七百萬圓、只今豫算ニ提出シテアルノガ三百五十萬圓、更ニ亞イデ、千五百萬圓、合セテ三億四千萬圓バカリニナリマス、此利子補給ガ七千三百萬圓バカリニナリマス、斯ウ云フ風ニ今頭ヲ出シタ所カラ見マスト、

甚ダ少額、餘リニ不徹底ノヤウナ嫌ガアリマスガ、ソレハ裾ニ參リマスレバ、彗星ノヤウナ風デ、隨分大キナ金額ニナリマス、此金額ハ更ニ政府當局トシテ、財政モ許シ、又其元金ハ簡易生命保險ノ資金ヲ得ルノデアリマスカラ、多々益々辯ジタイト思ウテ居リマス、而シテ只今ノ豫定ハ、全國小作地ノ約三十分ノ一強ニ當リマスモノヲ、自作農ニシテ行カウト云フ趣旨デアリマスカラ、全國府縣ニ於テ自作農維持創設ニ關シトデアリマスレバ、政府當局ハ益努メ此事業ヲ尙ホ進メテ行キタイト云フコトタイト思ヒマス、而シテ只今御尋ノ山形縣ニ於ケル廢川敷地ノ拂下ノ事ニ付テ縷々御述ベデアリシタガ、此點ハ大藏省所管ノ方面カラ何レ御答モアリマセウガ、大體今日ノ農林省ニ於テ各府縣ニドウ云フ風ニ自作農地ヲ取得シテ居ルカト云フコトヲ調べマシタ的確ナ、一錢一厘モ違ハヌト云フコトデハナイガ、大體ノ標準ヲ申シマスト、一反當リ購入價格ノ平均ハ、田ニ於テ五百九十九圓、畑ニ於テ四百八十圓、是ハ愛知群馬縣ニ於テハ田ニ於テ四百六十六圓、縣デアリマス、岐阜縣ニ於テハ畑ニ於テ四百六十一圓、田ニ於テ五百六十四圓、反當リノ貸付金ノ平均ガ、愛知縣三百四百九十二圓、畑ニ於テ二二百七圓、此一五圓、岐阜縣ガ田畑——二百八十三圓、

群馬縣ガ二百二十二圓、熊本縣ガ三百二十三圓、斯ウ云フ見當ニナッテ居リマス、而シテ其反別ハ相當ナ反別ヲ自作農ニ致シテ居リマスカラ、只今ノ廢川敷地ガ驚クベキ高イ價格デアルト云フヤウナ事ニ付キマシテハ、是ハ自作農ト云フモノノ本旨ニ全ク添ヒマセヌノデ、自作農ノ本旨ハ、御協賛ヲ得マシタヤウニ四分八厘ノ低利資金ニ對シテ三分五厘ヲ自作タラントスル者ニ支拂ハシメ、後ト一分三厘ヲ政府ガ補給スルノデアリマスガ、然ラバ三分五厘ハドウ云フ所カラ出シタカト申シマスト、現在自作ヲ致シテ居リマス者ガ自作農タラントスル場合ニ於テ、現在ノ小作料ヨリモ其負擔ヲ重カラシメザル程度ニ於テ、何時ノ間ニカ自作農者ニスルト云フコトノ趣旨ガ根本ニナッテ居リマスカラ、此趣旨カラ參リマスレバ、廢川敷地ノヤウナモノガ、非常ナ高イ價格アルト致シマスレバ、政府ガ一分三厘ヲ補給シテ三分五厘ヲ自作農ガ負擔シテ、而シテ現在ノ小作料ノヨリモ高カラザル程度ニ於テ、何時ノ間ニカ自作農ニナッテシマウ、即チ田畠併セテ約一町歩ノ自作農ニナルト云フコトノ趣旨ニ全ク悖ルノデアリマスカラ、農林貸付ノ規則ノ上カラ見マシテ、各府縣ヲ經由シテ町村若クハ産業組合等カラノ資金融通ヲ求メマス場合ニ於テ、農

村ニシテ既ニ其事ガ甚ダ自作農ノ趣旨ニ添ハザルコトニ當ルノデアラウト思ヒマスカラ、農林當局トシテ萬一二左様當リ、又利子ヲ補給スル場合ニ當リマシテ、篤ト詮議ヲ致サナケレバナリマセヌガ、左様ナコトハ有リ得ヌト思ヒマス、而シテ若シ其土地ヲ利用シ、將來ノ社會問題ノ解決、食糧政策ノ上カラ見マシテ、必要アリト云フコトニナッテ參リマスレバ、農林當局ト致シマシテハ、出來ルダケ此自作農ノ創定維持ノ精神ニ添フヤウニ、國有財產管理ノ方面デアリマスカラ、其當局トモ宜ク協議致シマシテ、御趣旨ニ添フヤウニ致シタイト思ヒマスガ、只今申上ゲマシタヤウニ大體ノ趣旨ニ於テ御諒承ヲ願イト思ヒマス

○黒田政府委員 私ハ一寸脇ニ參ッテ居リマシテ伺ハナカツタノデアリマスガ、今御質問ノ趣旨ヲ聞キマシタ所、國有地ノ拂下ゲノ價格ノ問題デアッタヤウニ思ヒマス(高橋委員「サウデス」ト呼フ)ソレデハ今日若シ間ニ合ヒマスレバ申シマスガ、若シ間ニ合ヒマセヌケレバ次ノ委員會ニデモ、他ノ政府委員カラ御答ヘサセタ方ガ、私ヨリハ適當カト思ヒマス、宜ク話シテ置キマ

○高橋委員 承知致シマンタ、ソレデハ此問題ハソレデ止メマス、此第二次税制整理ノ案ヲ通覽——マダザット見タ所デアリマスカラ、詳シイ事ハ承知致サナイノデアリマスガ、大體ニ於キマシテ政府ハ第二次税制整理ヲ以テ税制整理ノ完璧ヲ期スルト云フヤウナ、非常ナ、御聲明ガアリマシタ、之ニ依テ國民負擔ノ均衡ヲ得セシメ、或ル程度マデ國民生活ヲ安定セシムルニ足ルダケノ負擔ノ均衡モ致サレテ居ル、斯ウ云フ風ナ色ミ社會政策ヲ加味シタナドト云フヤウナ効能書ガ澤山アツタ、所ガ現ハレタ案ト致シテハ、實ニ吾ミハ豫想外ニ思フノデアリマス、マダ——此効能書ニ相應シイヤウナ御整理ヲ爲サレマヌニハ、隨分色ミナ整理モ此案ノ中ニ加ヘナケレバナラヌト思ヒマス、又此整理ノ痕ヲ見マシテモ、始メノ中ハ非常ナル輕減ヲ租稅ノ上ニ行ツテ、國民ノ負擔ヲ輕減爲サルト云フヤウナコトヲチヨイ——新聞アタリデ見テ居ッタノデアリマス、吾ミモ之ヲ喜ンデ居ッタノデアリマスガ、殊ニ消費稅方面ニ於キマシテ、印紙稅、登錄稅、砂糖消費稅、ト云フヤウナ方面ニ於テハ、相當ニ負擔ノ輕減モ爲サル意味ニ於テ整理額ガ約一千萬圓位ハ計上サレヤウト云フヤウナコトヲ承ッテ居ッタノデアリマス、ハル所ニ依ルト、是ハ義務教育費ノ國

庫負擔額ヲ、ソノ中一千萬圓ト云フマ
ア御約定デアツタヤウデアルガ、其中ノ
半額ダケデモ此際捻出シャウト云フコ
トデ、五百萬圓ノ財源ヲ得ル爲ニ斯ウ
云フ微温的ナモノニナッタト云フヤウ
ナコトヲ世ノ中ニ傳ヘラレテ居ルノデ
アリマス、或ハ吾ミモ此案ヲ見マシテ、
サウ云フコトガ原因ヲナシテ居ルノデ
ハナイカト云フヤウナ感モアルノデア
リマス、斯ウ云フ事ヲ能ク承知シテ居
ラスト、此案ヲ見ルノニ、理想ニ依テ御
ヤリニナッタノデアルカ、或ハ理想ハ其
處ニアツタケレドモ斯ウ云フ都合デ途
中デマア手加減ヲ致シタト云フコトニ
ナツタノダカラ、餘リヤカマシイ事ヲ言
ハシデ吳レト云フコトニナッテ居ルノ
カ、其邊ノ事ヲ能ク承知致シテ居ラナ
イト、質問モ少シ加減ヲ致サナケレバ
ナラスト思ヒマスカラ、先ヅ之ヲ第一
ニ伺ツテ置キタイト思ヒマス

下ダルコトモ出來得ルモノモアラウト考ヘテ居ツタノデアリマス、今日ノ財政ノ狀況ノ許ス範圍ニ於テ案ヲ立テルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスカラ、今回提案致シマシタ案ニ相成ッテ居ル次第デアリマス——丁度大藏大臣ガ見エマシタカラ、大藏大臣ヨリ述ベラレルコトト思ヒマス

○片岡國務大臣 今御質問ノ詳細ハ承知致シマセヌデシタガ、此處ニ來テ承ハル所ニ依レバ、最初第二次稅制整理ハ一千萬圓程ノ減稅ヲスルト云フコトヲ傳ヘテ居ツタガ、是ハ教育費國庫支辨負擔ヲ五百萬圓計上スルコトニナツタノデアルカラ、ソレガ爲ニ斯ウ云フ風ニナツタノデハナイカト云フヤウナ意味ノ御質疑デアツタト承知致スノデアリマス、若シ違ツテ居リマシタラ又後デ御尋ヲ願ヒマス、此稅制整理ハ、屢繰返シマス如ク、大體ニ於キマシテ收入ヲ非常ニ減サナイ範圍ニ於テ、負擔ノ均衡ヲ得セシメムルト同時ニ、現社會ノ實情ニ應ズルヤウニ社會的政策ヲ加味スル、斯ウ云フ事ニナツタモノデアリマシテ、第一次稅制整理ニ於キマシテモ、此意味ニ於テ種々ノ減稅ヲヤツタ、併ナガラソレデハ歲入ノ缺陷ヲ來スノデアリマスカラ、其缺陷ヲ補フ爲ニ酒、煙草、清涼飲料水、資本利子稅ト云フヤウナモノヲ以テ其補充ニ當テタ、今回ノ第二次ニ於キマシテモ、稅制整理ノ目的ハ今申上ゲタ通リデアリマス、是

ガ爲ニ多少ノ缺陷ヲ生ズル所ノモノヲ、他ノ負擔力ノアルモノニ轉嫁シテ、甚シキ歳入ノ不足ヲ生ジナイヤウニ、斯ウ云フ趣旨ヲ以テ編成シタモノニアリマシテ、財政ノ現状ニ基キ、許ス限りノ範圍内ニ於テ出來ルダケノ考慮ヲ拂ツタト云フニ過ギナインデアリマス、最初ハスウシヤウト思ッテ居ツタモノヲ、片方カラ要求ガアルカラ、其其方ニ取ラレテ云々ト云フガ如キ事柄ハ無イノデアリマス。

○高橋委員 ソレヲ承ツテ大變心強ク感ズルノデアリマス、漸次數項ニ亘ツテ質問ヲ致シタイト思ヒマスルガ、此印紙稅ノ方面デアリマスルガ、只今矢張第一回ノ稅制整理ノ如クニ收入ノ餘リ減ラナイヤウナ程度ニ於テ按排ヲ致シタト云フヤウナ痕ガ歷然トシテ居ルヤウデアリマス、ソレモマア敢テ深ク咎メナイト致シマシテモ、併シ此社會政策ト云フコトヲ高唱サレテ居ル以上ハ、貧者ニ重クシテ、富者ニ輕イト云フヤウナ取扱ハ、吾ニハ斷ジテ承服出來ナイ所デアリマス、印紙稅改正ノ痕ヲ見マシテモ、萬般ニ通ジテ私共ハ是ハイカト思ハレル節ガ多イニ氣付クノデアリマス、先ヅ此最初ニ第四條ノ所ヲ見マスルト、此一カラ五マデノ間デアリマスルガ、是等ノ方面デ見マシテモ、初ハ殊ニ消費貸借ニ關スル證書トカ云

デノ御説明ヲ承ツテ見マスルト、從來ハ比例稅デヤツテ居ツタ、併シ比例稅デハ思ハシクナイ、何トナレバ手數ガ官氏ノ範圍内ニ於テ出來ルダケノ考慮ヲ拂ツタト云フニ過ギナインデアリマス、殊ニ百圓以下ノ最初ハスウシヤウト思ッテ居ツタモノヲ、此要求ガアルカラ、其其方ニ取ラレテ云々ト云フガ如キ事柄ハ無イノデアリマス。

○高橋委員 ソレヲ承ツテ大變心強ク感ズルノデアリマス、漸次數項ニ亘ツテ質問ヲ致シタイト思ヒマスルガ、此印紙稅ノ方面デアリマスルガ、只今矢張第一回ノ稅制整理ノ如クニ收入ノ餘リ減ラナイヤウナ程度ニ於テ按排ヲ致シタト云フヤウナ痕ガ歷然トシテ居ルヤウデアリマス、ソレモマア敢テ深ク咎メナイト致シマシテモ、併シ此社會政策ト云フコトヲ高唱サレテ居ル以上ハ、貧者ニ重クシテ、富者ニ輕イト云フヤウナ取扱ハ、吾ニハ斷ジテ承服出來ナイ所デアリマス、印紙稅改正ノ痕ヲ見マシテモ、萬般ニ通ジテ私共ハ是ハイカト思ハレル節ガ多イニ氣付クノデアリマス、先ヅ此最初ニ第四條ノ所ヲ見マスルト、此一カラ五マデノ間デアリマスルガ、是等ノ方面デ見マシテモ、初ハ殊ニ消費貸借ニ關スル證書トカ云

デノ御説明ヲ承ツテ見マスルト、從來ハ比例稅デヤツテ居ツタ、併シ比例稅デハ思ハシクナイ、何トナレバ手數ガ官氏ノ範圍内ニ於テ出來ルダケノ考慮ヲ拂ツタト云フニ過ギナインデアリマス、殊ニ百圓以下ノ最初ハスウシヤウト思ッテ居ツタモノヲ、此要求ガアルカラ、其其方ニ取ラレテ云々ト云フガ如キ事柄ハ無イノデアリマス。

○黒田政府委員 淘ニ御尤ナ御質問デアルトハ限リマスマイ、併シナガラ山ノ金額ヲ書イタ者ガ、必ズシモ金持スカ、之ヲ御説明ヲ願ヒタイ

○黒田政府委員 淘ニ御尤ナ御質問デアルトハ限リマスマイ、併シナガラ

アリハシナイ、貧乏人ハ五百圓以下ノ

金額ガ増スニ比例シテ印紙稅モ増スノ者ガ多イト考ヘマス、殊ニ百圓以下ノ夫レ以上大金ヲ取扱フ人ニハ、是ハ大變便利デアルト云フコトハ、社會政

策ヲ加味シタ方法デナカラウト考ヘマス、階段ヲ付ケルト致シマシテモ、五十

圓以下二錢百圓以下三錢デアル、一錢ノ差デ五割ノ差ガ出來ル、百圓カラ五百

圓ノ間ハ五倍デアツテ見マスレバ、十錢ノ稅金デハ三倍三步ニナツテ居ル、五百

圓カラ千圓迄ハ二倍デアルカラ、十錢ガ二十錢ニナツタト云フコトニナリマ

セウ、其外千圓カラ一萬圓、是ハ十倍デアルカラ、二十錢ノモノハ二圓ニナル

ベキデアル、是ガ五十錢トナツテ居ル、

ガ、又實際ニ於テ是ガ比例稅通リニ行ガサウナツテ居ラヌト申シマスノハ、

仕組ンデアリマシテモ、實際ニ於テ是

擔ノ不權衡ヲ來タシテ居ル、法文ノ上

イヤウナ御質問デアリマシタ、然ルニ

是ハ實際ノ上カラ見マシテ、極メテ負

デアリマスカラ、現行ガ如何ニモ宣

シテ、實際ニ於キマシテモ非常ニ負擔ノ不平等デアルニモ

拘ラズ、實際ニ於キマシテモサウ云フ

結果ヲ來スノデアリマス、是ハ直シテ

デアリマス、取扱上不平等デアルニモ

官民ノ手數ヲ省キ、同時ニ負擔ヲ成ベ

ク公正ニスル、ソレニハ法ニ規定シテ

居ルコトガ行ハレルヤウニスル、詰リ

法文通り行ハレテ行クコトニナリマス
レバ、幾分今日ヨリモ負擔ノ公正ヲ期
スルコトガ出來ルト考ヘマシテ、比例
稅ヲ階級定額稅ニ直シタノデアリマ
ス、然ルニ御話ノ如ク階級ヲ多ク致シ
マシテ、其階級ノ上ルニ從ヒマシテ、或
ハソレニ多少比例致シマシテ印紙稅ヲ
増スコトニナルト云フコトニナリマス
ト、只今御質問ノ御趣意ニモ合フヤウ
ニモ考ヘラレマスガ、是ハ階級ヲ多ク置
ク爲ニ實行ガ困難デアル、又非常ニ高額
ナモノニナルト脱稅ガ行ハレテ困ルノ
デアリマス、ソレ故ニ成ベク之ヲ簡便
ニシテ、是ガ實際行ヘルヤウニシテ、率
ヲ餘リ高クシテ却テ脱稅ヲスルモノガ
出テ、負擔ノ公平ヲ得ラレナイヨリモ、
實行ノ出來易イモノニセナケレバナラ
ヌト云フヤウナ點カラ致シマシテ、階
級ヲ一萬圓ニ致シマシテ、ソレ以上ハ
困難デナイ、苦痛デモナイノデアリマ
スシ、實際ニ於テモ行ハレルト思フノ
デアリマス、ソレ故サウ云フ趣意カラ致
イ、唯く徒ニ法文ノ上デ形ダケヲ整ヘ
テモ、實行ガ出來マセヌト、非常ナ不都
合ヲ來タスノデアリマスカラ、實行ガ
出來ルヤウニ致シタノデアリマス、只
今ノ御疑問ノ起リマスコトモ御尤デア
リマス、斯様ナ次第デ實際ニ於テ負擔
ノ公平ヲ得ルノデアリマシテ、殊更ニ

一萬圓ノモノヲ輕減シヤウト云フノデ
ハアリマセヌ、所謂社會政策上カラ觀
察致シマシテ額ノ多イモノヲ輕減シタ
ト云フ趣旨デナカッタコトヲ御諒承願
ヒマス
○高橋委員 ドウモ只今ノ御答デハ分
リ兼ネルノデアリマスガ、御説明ヲ伺
テ居ルト、此改正案ノ趣旨ハ脱稅ヲス
ルモノト正直ナモノトノ負擔ノ均衡ヲ
圖ルニアリト云フヤウニ考ヘラレル、
脱稅スルモノガアレバ、印紙稅法上ノ
取締ノ方法モアルノデアルカラ、ソレ
デヤツタラ宜カラウ、今マデノ比例稅ヲ
行フト不便デアルト云フノハ、計算ガ
不便ダト云フノデアリマスケレドモ、
一萬圓トシテ五圓ノ印紙稅ヲ課セラレ
ル、之ヲ覺エテ居レバ一寸メノコ算モ
出來ルシ、算盤ガアレバ尙ホ容易ニ計
算ガ出來ル、ソレガ此階段ニ依リマス
ト、何果以下ハ何某ト云フ表ヲ一々懷
口ニ入レテ置カナケレバナラヌ、表ヲ
持ツテ居ラナイデ階級ノ分ッテ居ル位ノ
人ナラバ、今ノモノガ不便デアルト云
フコトハナカラウト思ヒマス、サウ云
フ見解カラ申サレマスト、是デハ國民
ハ甚ダ迷惑スルト思フ、前ノ方ガ却テ
面倒ハナイト思ヒマス、之ヲ見テモ百
圓ガ三錢デアル、サウシテ五百圓ガ十
錢デアルト云フヤウナコトニ致シマス
ト、茲デ、色ニナ具合ニ之ヲ割リマシ
テ、二ツニモ三ツニモ致シテ、サウシテ
稅金ヲ課シテ貰フト云フヤウナコトモ

出来ナイトモ限ルマイト思フ、サウ致シ
マスト矢張稅金ヲ脱レルコトニ相成ル
ト云フ趣旨デナカッタコトヲ御諒承願
ヒマス
心得者ハナクナルダラウト思ハレテモ、
ニシテモ此位ニ安クマケテヤツタラ不
ト、正直ニヤツテ居ル者トノ間ノ負擔ノ
ネルト思フ、ソレデアリマシテカカル
デアルト云フヤウナコトハ一寸測リ兼
不、ソレハ不便デアル不便デナ
ト云フコトハ、ソレハ見込違ヒダト、御
脱稅スルモノガアレバ、印紙稅法上ノ
取締ノ方法モアルノデアルカラ、ソレ
デヤツタラ宜カラウ、今マデノ比例稅ヲ
行フト不便デアルト云フノハ、計算ガ
不便ダト云フノデアリマスケレドモ、
一萬圓トシテ五圓ノ印紙稅ヲ課セラレ
ル、之ヲ覺エテ居レバ一寸メノコ算モ
出來ルシ、算盤ガアレバ尙ホ容易ニ計
算ガ出來ル、ソレガ此階段ニ依リマス
ト、何果以下ハ何某ト云フ表ヲ一々懷
口ニ入レテ置カナケレバナラヌ、表ヲ
持ツテ居ラナイデ階級ノ分ッテ居ル位ノ
人ナラバ、今ノモノガ不便デアルト云
フコトハナカラウト思ヒマス、是デハ國民
ハ甚ダ迷惑スルト思フ、前ノ方ガ却テ
面倒ハナイト思ヒマス、之ヲ見テモ百
圓ガ三錢デアル、サウシテ五百圓ガ十
錢デアルト云フヤウナコトニ致シマス
ト、茲デ、色ニナ具合ニ之ヲ割リマシ
テ、二ツニモ三ツニモ致シテ、サウシテ
稅金ヲ課シテ貰フト云フヤウナコトモ

出来ナイトモ限ルマイト思フ、サウ致シ
マスト矢張稅金ヲ脱レルコトニ相成ル
ト云フ趣旨デナカッタコトヲ御諒承願
ヒマス
心得者ハナクナルダラウト思ハレテモ、
ニシテモ此位ニ安クマケテヤツタラ不
ト、正直ニヤツテ居ル者トノ間ノ負擔ノ
ネルト思フ、ソレデアリマシテカカル
デアルト云フヤウナコトハ一寸測リ兼
不、ソレハ不便デアル不便デナ
ト云フコトハ、ソレハ見込違ヒダト、御
脱稅スルモノガアレバ、印紙稅法上ノ
取締ノ方法モアルノデアルカラ、ソレ
デヤツタラ宜カラウ、今マデノ比例稅ヲ
行フト不便デアルト云フノハ、計算ガ
不便ダト云フノデアリマスケレドモ、
一萬圓トシテ五圓ノ印紙稅ヲ課セラレ
ル、之ヲ覺エテ居レバ一寸メノコ算モ
出來ルシ、算盤ガアレバ尙ホ容易ニ計
算ガ出來ル、ソレガ此階段ニ依リマス
ト、何果以下ハ何某ト云フ表ヲ一々懷
口ニ入レテ置カナケレバナラヌ、表ヲ
持ツテ居ラナイデ階級ノ分ッテ居ル位ノ
人ナラバ、今ノモノガ不便デアルト云
フコトハナカラウト思ヒマス、是デハ國民
ハ甚ダ迷惑スルト思フ、前ノ方ガ却テ
面倒ハナイト思ヒマス、之ヲ見テモ百
圓ガ三錢デアル、サウシテ五百圓ガ十
錢デアルト云フヤウナコトニ致シマス
ト、茲デ、色ニナ具合ニ之ヲ割リマシ
テ、二ツニモ三ツニモ致シテ、サウシテ
稅金ヲ課シテ貰フト云フヤウナコトモ

所得ノ累進税率ヲ取去ツテシマツタ、ソレ故是ハ一方ニ同族會社ノミニ儲ケセルモノデアル、サウ云フモノノ脱税率助長スルモノデアルトイフ非難ガアル、之ニ屬シテハ同族會社ノ取締ノ方タノデアル、所得稅ノ方デハ脱稅ノ風氣嚴重ナル規定ヲ設ケテ取締ルトイフコトヲ、現ニ第一次整理ノ時分ニ爲サツトノ助長スル虞ガアルナラバ、其内ニ規定ヲ設ケテ、ソレデ以テ取締ツテ行カウト云フ、印紙稅ノ方デハ脱稅ヲ稅率ノ立方ニ依テ之ヲ防ガフナドト云フヤウナコトハ、終始一貫ヲシナイ大ナル矛盾ノアル御議論デハナイカト思フ、ソレデアリマスカラ、サウ云フ事ハ理由ニナラナイ、サウシテ理由ニナラナイコトニナルト——今申上ゲタニツノ事柄ガ理由ニナラナイト云フヤウナコトニナレバ、殘ル所ノモノハ唯ミ大キナ金額ヲ取扱フ者ニ便利ニスルト云フガ如キ爲ニ此法律ノ改正ヲ致シタト云フ外ニ、吾ミハ何物ヲモ認メラレナイノデアリマスガ、之ニ付テ政府ハ左様ニ御認メニナラナイカ、矢張前ニ政府委員ガ仰セニナツタヤウナ理由ノ下ニ、是ノミニ依テ此改正ヲ行ハレタノカト云フコトヲ更メテ承リタイ

フ方ガ煩雜デアル、政府ニ於テハ之ヲ改メテ納稅者ノ便宜ニスルト云フノデアルガ、却テ反シテハ居ナイカト云フ御話デアリマスルガ、是ハ私共ハ今日ハ反對ノヤウニ實ハ考ヘルノデアリマシテ、唯ミ考ヘマスレバ、成程萬分ノ五ト云フ數字デアリマスルカラ、是ハ直グ判ルデハナイカト云フコトハ言ヒ易イノデアリマス、併ナガラ實際ニ於キマシテ是ガドウナツテ居ルカト云フ、唯單ニ此形ノ上デ見マセヌデ、實際ノ勵キヲ見マスト云フト、中ミサウ云フ風ニ想像スルヤウニナツテ居ラヌノデアリマス、吾ミデモツイ此机ノ上デ考ヘマスト、萬分ノ五ダカラ直グ判ルデハナイカ、ソレガ行ハレナイコトハナイト云フコトヲ考ヘマスルケレドモ、是ハ所謂机ノ上デ考ヘルコトデアリマシテ、實際ニ入ッテ見マスト、中ミサウハ行カナイ、之ヲ單ニ其法文ノ上デナク、取締ノ方デ十分ニヤレト云フ御話デアリマスガ、洵ニ御尤ノ事ト考ヘルノデアリマス、勿論取締ノ方ニ於キマシテモ、出來ルダケ之ヲ取締リマシテ、サウシテ脱稅者ヲ避ケテ、正直ナ者トノ間ニ何等公平ヲ失スルコトノナイヤウニ努メナケレバナラヌコトハ、是申スマデモナイノデアリマス、併ナガラ法文ノ立前ト致シマシテモ、成ベク脱稅之ヲ行ヒ易イヤウニシテ、成ベク脱稅ニ導カナイヤウニ制度ヲ立ツテ行クト云フコトガ必要デアラウト思フ、然ル

ニ此萬分ノ五ト云フコトニシマスト、
キマスモノデアリマスカラ、實際ニ於
シテ唯ミ先程申上ゲマシタ通り、印紙
ヲ貼ツテモ宜シイト云フノデ、三錢位ノ
印紙ヲ貼ツテ、所謂誤魔化スト云フコト
ガ、實際ニ於テドウモ行ハレ易イノデ
アリマス、ソレ故ニサウ云フコトガア
リマスト、勿論一面ニ於キマシテハ取
締リマスルガ、併ナガラ現行ノ制度ニ
於テ、サウ云フ事ガ行ハレ易イナレバ、
成ベクスウ云フ事モ實際ニ於テ行ハレ
ナイヤウニ致シテ、サウシテ違反者ヲ
少クスルヤウニ努メルコトガ、立法ノ
ソレニハ是ハ或ル程度ノ餘リ複雜ナ階
級ニ致シマスト、今度ハ今仰セニナッタ
ヌ點デアルト考ヘルノデアリマシテ、
ナリマス、併ナガラ餘リ不便ニナラナ
イ程度デ、而モ餘リ之ヲ階級ヲ少クス
ルト、御議論ノ如ク餘リニ負擔ノ權衡
ヲ得ラレマセヌカラ、其點ヲ調和致シ
マシテ、餘リニムヅカシクナク、サウシ
テ又餘リニ細カクナク、其程度ニ於テ
決メマスト云フト、大體此一萬圓以上
ハ一圓ト云フコトニシマスレバ、是ナル
ラバ實行モシ易イノデアリマス、今迄
二十萬圓ニナルト十圓ノ印紙ヲ貼ラナ
ケレバナラヌ、或ハ五十萬圓ニナルト

二十五圓ノ印紙ヲ貼ラナケレバ、ナラヌ、又其中間ナラ勿論デアリマスガ、色々多額ノ印紙ヲ貼ル爲ニ、脱税ヲ誘ヒ起ソテ参ルノデアリマスカラ、之ヲ寧ロ一圓ニシテ、之ヲ一律ニ皆貼ソテ貰ッタ方ガ、却テ負擔ノ公平ヲ得ルト云フヤウニ考ヘマシテ、此邊ヲ一圓ニスル、サウヌレバ下ノ方ハ先程御述ニナリマシタ通リ、負擔ヲ増スコトガアツテハイケマセヌカラ、段々是ハ階級ヲ設ケテ來ル、ソコデ此程度デアリマスレバ、斯ウ云フモノヲ貼リマスコトニ當リマスモノニ付キマシテハ、サウ其一々印刷物ヲ始終手ニシテ之ヲ見マセヌデモ、大體此位ナ階級ナラバ實行モ出來ルダラウト云フ風ニ考ヘマシテ、此程度ニ致シタノデアリマス、勿論ソレノミヲ以テ此脱税ヲ防ギ得ルトモ考ヘテ居リマセヌ、併ナガラ今日ノ制度ヨリモ、此方ガ實行シ易クテ、脱税ガ少イ、行ヒ易クスレバ、實際ニ之ヲ行フノデアリマス、行ヒ難クシテ脱税ニモ導クヤウニスルト云フコトハ、成ベク避ケナケレバナラヌ、一面ニ於テ取締モゴザイマスガ、此中デモ傭船契約トカ、請負トカ云フヤウニナツテ來マスト、是ハ營業リマスト、個人間ノモノデアツテ、又デアリマスケレドモ、普通ノ貸借ニナ成ベク之ヲ世間に出サナイヤウニシテ、取引スルノデアリマスカラ、取締ノ上

ニ於テモ非常ニ困難ガアル、ソレ故ニ
取締ノミニ依テ是ガ是正モ出來マセヌ
カラ、法文ノ上ニ於テハ成ベク行ヒ易
オヤウニシテ、法文ノ通リ行ッテ貰ヒタ
イト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス
○高橋委員　此問題ハマダ腑ニ落チナ
イコトガアリマスカラ、尙ホ他日ニ保
留致シマシテ次ニ移リマスガ、此約束
手形トカ爲替手形其他ニモアリマス
ガ、殊ニ約束手形ノ如キモノハ、從來三
錢カラ七圓マデノ階級定額稅ニナッテ
居ツタノデアリマスガ、此前ノ改正ノ時
分ニ、斯ウ云フモノハ爲替手形ヲ代用
スル者ガ多イカラ、ソレガ爲ニ是モ同
ジヤウニ三錢ノ定額稅ニシヤウト云フ
ヤウナコトニナッテ居リマスガ、貸借證
書ハ實際ノ所ヲ見マスルト、證書ハ銀
行アタリデモ個人ニシテモ實際ハ少
イ、多クハ手形貸付ニナッテ居ル、サウ
シテ御承知ノ通リ實際ニ餘リ頻繁ニ取
引ノ行ハレナイ方面ニ於テハ、豫メ拒
絶證書ノ作製ヲ免除スルト云フヤウナ
免責條項ヲ、或ハ手形面ニ加ヘテ、其義
務ヲ無クシテ居ル、又一方ニハソレニ
符箋ナドヲ致シマシテ、期限ガ經過シ
テモ、普通ノ債權トシテ取扱フト云フ
マスカラ、只今デハ市中ニ於ケル約束
手形ハ、普通ノ借用證書ト何等異ツテ居
マス、サウ云フヤウナコトニナッテ居リ
ガカカル、手形ニスレバ稅金ガ三錢デ

濟ムト云フコトニナル、其間ニ非常ニ不公平ガ生ズルト思フ、サウシテ普通ノ借用證書ニ例ヲ取ルト、借用證書ハ主ニ不動産ヲ取扱フ方面ニノミ行ハレ、普通ノ商業取引ニハ手形ガ行ハル、サウスルト不動産ヲ取扱フ機會ノ方ハ輕クナルト云フコトデ、負擔ノ不公平ハ此處ニモ生ズルデアラウデアルカラ、是等ノモノハ爲替手形モ同ジデアリマセウ、株券モ、債券モ受取證モ矢張階級定額制度ヲ御認メニナル以上ハ、是亦階級定額制度ニ定メラレテ差支ナイト思フ、是等ヲ三錢ノ定額稅ヲ課セラレルト云フコトハ、是ハ矛盾シテ居リハセヌカト思フ、若シ理想的ニ改正ナサラウト云フ時ニハ、サウ云フコトモ考慮サルベキデアル、今マデサウデアツカラ、其儘デ差支ナイト云フモノデハアルマイト思フ、負擔ノ衡平ト云フコトハ、必ズ考ヘナケレバナラヌト思フ、然ルニ約束手形、爲替手形、株券、債券、商品切手、受取書等ハ階級定額稅ヲ課ケナイデ、是デ宜イト云フ御主旨デ承リタイノデアリマス。

論上必ズシモ不都合トハ認メナイト考ヘマス、併シナガラ原則ト致シマシテ、屢作製スルモノデアリマシテ、受取證ノ如キモ屢作ラナケレバナラヌ、或約束手形ノ如キモノモ、或ハ爲替手形モ、只今御述ニナリマシタヤウニ、成程貸付證書ト同ジャウニ取扱ツテ居ルモノ勿論アルト考ヘマスガ、大體ニ於キマシテ是等ハ特殊ノ流通證券ト認メラルベキモノデアリマスカラ、ソレ等ノ點ニ考ヘマシテ、現行モ階級定額稅デアツタコトハ御述ニナリマシタ通りデアリマス、之ヲ直シマシタ趣旨モ其處ニアリマス、現在ノ三錢ヲ特ニ此際變更スル必要ハナカラウカト考ヘマシタ、然ラバ貸借證書ノ方ト權衡ヲ失スルデハナカラウカト云フ御詰デアリマシガタ、爲替手形ハ成程或ル場合ニ於テハ貸借證書ト同ジャウナ目的ニ作製セラレル場合モ勿論アルコトヲ承知シテ居リマスガ、併シ先程述べマシタ通り、大體ニ於テ是ハ特殊ノ流通證券ト致シマシテ作製サレルモノデアリマシテ、貸借證書ノ如ク原則トシテ、頻繁ニ作製セラルベキモノデナイ、又相當期間長期ノモノノデアル、ソレ等ノモノトハ自ラ性質ガ違ヒマスカラ、偶ミ同ジャウナ目的ニ使フコトガアリマシテモ、トモ、差支ナカラウト考ヘマシテ區別ノデハナイカラ、茲ニ區別ガアリマスコトモ、差支ナカラウト考ヘマシテ區別致シタ次第デアリマス、ソレカラ序ニ

○武藤委員長 許シテ差支アリマセヌ
カ——ソレナラ太田サンカラ國有財產
ニ付テノ説明ヲ致シマス
○太田營繕管財局理事 委員長ノ御許
シヲ得マシテ説明致シマスガ、御質問
ノ要點ハ多少伺ヒマシタガ、若シ間違
ヒマストイケマセヌカラ、モウ一度承
タ上御答致シタイト思ヒマス
○高橋委員 河成——重ニ河成デアリ
マスガ、ソレガ河川敷地ニ編入サレ
テ居ル、何時河川敷地ニ編入サレタカ、
ソコハハツキ致シマセヌガ、兎モ角モ
河川敷地ニ入ツタ、ソレガ雜種地ニナツ
テ居タ所ガ、此度ノ國有財產ノ處分ノ
序ニサウ云フモノガ問題ニナツテ、ソレ
ヲ拂下ゲルニ付テハ、無論縁故者ガア
ルノデアリマス、其縁故者ト云フモノ
ニ付テ御調査ニナリマスカ、現在ノ土
地ノ占有者ハ其處ヲ開墾シテ、非常ナ
手數ヲ掛ケテ田ニシタ、サウ云フ土地
ハ主ニ荒川デアル、ソレデアリマスカ
ラ大キナ石ナドモ澤山アル、主ナル石
ノ產地ナドト云フモノハ河川敷ニ多
カ多イ、ソレガ又川ノ中デアリマスカ

ラ、何時洪水ナドノ爲ニ舊態ニ返ルカ
モ分ラナイ、ソレデアリマスカラ、ソコ
ヘ持ツテ行ツテ非常ニ金ヲ掛ケテ、村デ
堤防ヲ造ッテ、ソレガ爲ニ土地ガ美田ニ
ナツタコトモ色ニナコトガアリマス、サ
ウ云フモノヲ今マデノ當局ハ毫モ知ラ
ズニ、勝手ニ其田ノ今ノ成績ヲ見マシ
テ他ノ類地ト比較ヲ致シマシテ、此位
ノ所ハ上田デアル、是ハ中田デアル、是
ハ下田デアル、又はハ下ノ下田デアル
ト云フ風ニ、四ツ位ニ大キク分ケテ居リ
マス、或ハ三ツニ分ケテ居ル所モアル、
ソレガ爲ニ上田ナラバ四百五十圓、此
位ナラバ三百圓ガ相當デアルナドト云
フコトヲ初メトンテ、サウシテ稅務所デ
ハソレ。查定ヲサレテ居ル、民間デ
ハソレニ中ニ應ジナイモノデアリマス
カラ、色ニナ折衝ノ結果、幾分カ下ゲテ
來テ居ル所モアリマス、又四百五十圓
ト唱ヘタモノヲ三百五十圓程度マデ
低下シタ所モアリマス、是ハ種々難多
ニナツテ居リマスガ、要スルニ普通ノ田
地ト同ジ價格デ以テ其土地ヲ拂下ゲ
テ、之ガ爲ニ此附近ノ自作農ガ非常ナ
ル困難ヲ感ジテ居ル、斯ウ云フコトガ
事實上アルノデアリマス、之ヲドウニ
カシテ救濟ヲ致サナケレバ、其部落ノ
貧農小農ト云フ者ハ全滅ヲスル虞ガア
ル、五六十戸ノ部落ニシテ一萬圓近ク
ノ負擔ヲシナケレバナラヌ、僅カニ三
町歩カソコラノ交付地ヲ拂下ンガ爲
ニ、一萬圓近クノ金ヲ捻出シナケレバ

ナラヌト云フ部落モ生ジテ來ル、ソレ
デアルカラ、茲ニ問題ニナリマスノハ、
サウ云フヤウナ時價デ以テ拂下ヲシナ
ケレバナラヌト云フヤウナ苛酷ナル取
扱ヲスル以外ニハ、政府トシテ斯ウ云
フ特殊ノ事件ニ對シテ取扱ノ方法ハナ
キヤ否ヤ、又他ノ方面ニ付テハ、ソレゾ
レ自作農創定ナドト云フテ、色々積極
的ニ低利ノ貸付ヲスル、年賦償還ヲス
ルト云フ場合ニ當ツテ、ソレヲ分割シテ
納付スルト云フコトモ出來ナイ、所謂
年賦償還ノ方法モ無イ、一時ニソレヲ
納メナケレバ、オ前ハ權利ガ無イ者ト
シテ之ヲ競賣ニ付スル、サウ云フ方法
ニ依テ處分ヲスルト云フコトハ、餘リ
苛酷デアルガ、是ハ政府トシテサウ云
フ苛酷ナル方法ニ依テ取扱ヲシテ居ル
ノデアルカラシテ、何カモット穩和ニシ
テ、今ノ時代精神ニ適フヤウナ取扱方
法ハナイカト云フ、此ニツデアリマ
ス

ル所ノ價格ヲ以テ拂下ダルコトニナツ
テ居リマス、所ガ今御話ニナツテ居ルノ
ハ、サウ云フ正式ノ手續ニ依ラズシテ、
コトデハナイカト思フノデアリマス、
サウ云フヤウナコトハ澤山アルノデア
リマス、斯ウ云フ事情ニ於テ酌量スペ
キモノニ付テハ、營費ヲ要シマシタ所
ノ経費ノ如キハ、價格ノ中カラ差引キ
マシテ、素地ノ價格デ拂下ヲ致シテ居
ルノデアリマス、其最モ大キイ所ハ山
形縣ニアリマシテ、山形縣ニハ國有地
ガ非常ニ多イノデアリマス、ソレデ從
來ノ慣例ガ無斷デ國有地ヲ開墾致シマ
シテ、相當ノ值打ノ有ルモノニ付テハ、
拂下ヲ求メテ置キマシタノデアリマス
ガ、其場合ニ於キマシテハ、時價ヲ以テ
拂下ゲマシテハ甚ダ苛酷ト考ヘマス、
ソレ等ノ方ハ開墾費ヲ除キマシタ所ノ
素地ノ價格ヲ以テ拂下ゲテ居リマス、帝
國議會ノ協賛ヲ經テ、特別ノ整理費ヲ
貰ツテヤッテ居ルノデアリマス、ソレ以
外ノ土地ニ付テハ、一概ニ申サレマセ
ヌケレドモ、事情ニ於テ酌量スペキコ
トガゴザイマスレバ、開墾ニ對スル所
ノ費用ノ如キモノハ差引イテ居ルノデ
アリマス、併ナガラ事情ニ依リマシテ
酌量スペキ點ガナイ場合ニ於テハ、時
價デヤルモノモアルカト考ヘテ居リマ

ス、具體的ノ問題ニ付テハ、後程能ク調
査シマシテ御答致シマス
○高橋委員 能ク分リマシタガ、是ハ
丁度直接ニ關係ガアリマセヌカラ後程
同ヒマス、私ハ山形縣ノ例デ、自分ノ足
元ニ起ツタ事情ヲ申上ゲタノデアリマ
ス、ソレデ今尙ホ仰セニナルヤウナコ
トヲヤツテ居ナイノデアリマス、サウシ
テ素地デ拂下ゲルト云フヤウナ方法ヲ
執ヅテ居ラナイノデアリマス、一坪ニ對
シテ二人位ノ勞費ハ掛ツテ居ル、所ガソ
レハ冬ノ仕事ノ無イ時ニ開墾ヲシタノ
デハナイカ、デアルカラソレハ「ゼロ」
ト見テ宜イノデハナイカト云フコトデ
採用サレナイ、稅務署ノヤリ方ナドハ
當テニナラナイノデゴザイマス、サウ
云フコトヲシテ澤山賣上ガ出來レバ賞
與金モ貰ヘルカ知レマセヌガ、ソレガ
熱心ナ苛斂誅求ト云フノデアリマス、
是ハ餘計ナコトデアルケレドモ、サウ
云フコトヲ議員諸君ガ頭ニ入レテ置イ
テ、此問題ヲ疎カニ出來ナイト云フコ
トヲ申上ゲテ置キマス、ソレカラ後程
個人トシテ政府委員室ニ同ヒマシテ、
之ニ付テ私ノ氣付イタ所ヲ述べ、政府
委員ニ同ヒマス、ソレデ此問題ハ打切
リマス、ソレカラ政府委員ニ承リマス
ガ、此賣買仕切書デアルトカ、或ハ送狀
トカ云フヤウナモノハ、今度ハ免稅ニ
ナルコトニナツタノデアリマスガ、是ガ
免稅ニナルコトハ理論上オカシイト思
フノデアリマス、ソレデ矢張印紙稅モ

消費税ナドト見レバ宜イノデアッテ、又
交通稅ノ一種ト見テモ宜カラウ、サウスルト
財產ノ移轉ヲスルト云フコトヲ一
ツノ基本觀念ニ置カナケレバナラヌ、
サウ云フ時分ニ賣買仕切書トカ送狀ト
カ云フモノハ、其稅率ニ當嵌ラナイニ
トハナイト思ヒマスガ、是ハ實際ノ上

〔武藤委員長 委員長席ヲ退キ
奥村理事代リ著席〕

○黒田政府委員 賣買仕切書送狀ニ付
キマシテ、是ハ寧ロ免稅ヲスベキモノノ
デハナイト考ヘルノニ、何故ニ免稅シ
タカト云フ御尋デアリマスガ、賣買仕
切書送狀ト云フモノハ、其性質カラ見
レバ、或ハ免稅ヲシナイト云フコトモ
適當ト考ヘラレルノデアリマス、ソレ
故ニ今日マデ之ヲ課稅ヲサレテ居ルコ
トニ相成ツテ居ツタノデアリマス、然ル標
ニ此賣買仕切書ハ、申スマデモナク御
準價格ヲ以テ商品ノ賣買ヲシマシタ場
合ニ、其確定價格ヲ表示シテ精算書ノ
決算ヲ行フト云フヤウナ意味デ解釋サ

レテ居ルノデアリマス、然ルニソレ
ガ實際ニ當リマシテ、一々是ガ左様
ナ點カラ見マシテ、賣買仕切書デア
ルヤ否ヤト云フコトハ、實際ニ當ルト
其書方ガ色ニニアリマシテ、又色ニ之
ヲ變更致シマシテ、果シテ是ガ賣買仕
切書ト認メ得ルカ否ヤト云フコトニ付
テ、稅務當局ト納稅者トノ間ニ非常ニ
紛爭ガ絶エナイノニアリマス、唯ニ賣
買仕切書ト申シマスレバ如何ニモ明カ
ナヤウデアリマスガ、實際ニ當リマシ
テ、今申スヤウニ果シテ是ガサウ云フ
ヤウナ目的ノモノデアルカ、ソレダケ
ノ目的ヲ達スルモノデアルヤ否ヤト云
フコトニ付テ、非常ニ爭ガアルノニア
リマス、是ハ既ニ御承知デアラウト者
ヘマスガ、此賣買仕切書ニ課稅スルヨ
トニナリマシテ以來、長イ間此紛争ガ
絶エナイ、或ハ訴訟トナツテ稅務當局ノ
勝ツコトモアリマスルシ、或ハ時ニハ
稅務當局ノ方ガ敗訴ニナルコトモアル
ト云フノデ、非常ニ之ニ對シマシテハ
爭ガアル、而モ其モノハドウカト云ヒ
マスルト、是ハ日常取引ニ於テ頻繁ニ
發行サレテ居ルノデアリマシテ、而モ
ソレニ對シマスル爭ガ起リ易イノニア
ル、ソレ故ニ——送狀ニ付キマシテモ
同様デアリマスガ——サウ云フ風ニ成
程其性質カラ見マスレバ、之ニ課稅ス
ルト云フコトモ適當ダラウカト考ヘマ
スガ、實際ノ稅務行政ノ便宜上カラ由
シマシテ、又納稅者ノ便宜ノ上カラ由

シマシテモ、是ハ寧ロ此免稅ヲシタ方
ガ適當デアル、ソレガ即チ稅務行政上
ノ執行ノ圓滿ト、又官民ノ手數ヲ省略
スルト云フ趣旨デ、此改正ヲシマシタ
一ノ點デアル、左様ナ事情カラ免稅ス
ルコトニ致シタノデアリマス
○高橋委員 登錄稅ノコトニ付テ少シ
伺ツテ見タイノデアリマスガ、此登錄
稅法改正ノ第二條ノ第一號ハ兎モ角ト
シテ、現行法ノ三號デ改正法ノ二號「遺
言贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ
取得」ト云フモノニ對シテ、今迄ハ千分
ノ六十デアッタノガ千分ノ四十五ニ下
ゲタ、ソレカラ其次ニ「前各號以外ノ原
因ニ因ル所有權取得」ト云フモノハ、今
迄ハ千分ノ三十六デアッタガ三十三ニ
下ゲタ、斯ウ云フコトデアリマスガ、其
遺言贈與其他無償名義ニ因ル所有權ノ
取得ニ對シテ輕減シタト云フコトニ對
シテハ、吾ニハ非常ニ不思議ニ堪ヘナ
イノデアル、斯ウ云フモノハ謂ハバ近
頃ノ言葉デ言ヒマスルト、不勞利得
ニモナリマセウ、何等勞セズシテ利得
ヲ得テ居ルノデアル、ソレガ社會公共
ノ爲デアルナラバ格別、是ガ個人ノ所
有ト云フコトニナルト、是ガ道樂スルヤ
ウナ財源ニナラヌトモ限ラナイ、斯ウ云
フモノニ對シテハ私ハ相當ナル稅ヲ掛
ケテ宜シトイ思フ、又今ノ稅率ヲモ足
リナイト思ハレル位デ、社會政策上カ
ラシテ斯ウ云フ何等代價ナクシテ無償ス
ルコトニ致シタノデアリマス

ヲ課シテ差支ナイト思フ、然ルニモ拘ラズ之ニ對シテ輕減ヲスルト云フコトハ、社會政策ト云フヤウナ方面ニ於キマシテモ、負擔ノ均衡ヲ圖ル上ニ於キマシテモ、私ハ矛盾ハシテ居ナイカト思フ、此改正ノ理由ヲ知ルニ付テ私共ハ苦ンデ居ルノデアリマス、此點ヲ伺テ置キタ

デアリマス、全部トハ決シテ申シマセ
スガ、極端ニ申シマスレバサウ云フ風
ニ無償ノモノモ有償ノ形デ適用ヲ受ケ
ルコトニナッテ居リマス、是デハ負擔ノ
公正ヲ得ラレナイノデアリマス、是ハ
税率ノ差ガ餘ニ大ナルガ故ニ自然サウ
ナル、ソレデ之ヲ成ベク實際ニ適合ス
ルヤウニシタイ、ソレニハ之ヲ成ベク
接近セシメル、併ナガラ之ヲ全然賣買
ト同ジニスル譯ニハ參リマセヌ、ソレ
デ今回ハ千分ノ四十五ト云フコトニシ
タノデアリマスガ、之ニ依テ事實ヲ偽
テ賣買ニスルト云フヤウナ弊ヲ少クス
タル、理想ハサウ云フ事ノ無イヤウニシ
タイノデアリマスケレドモ、先ヅ其通
リニナリマセヌデモ、之ヲ少クシテ負
擔ノ公正ヲ得セシムルコトニナリマス
ヤウニ考ヘマシテ、下ゲマシタ次第デ
アリマス

○高橋委員 サウ致シマスルト、此改

正ノ第二號デアリマスルガ、斯ウ云フ

ヤウナ事實ハ、主ニ父子ノ間デアルト

カ、或ハ親族間デアルトカ、多クハサウ

云フ間ニ是ガ行ハレルノデアリマス

ガ、餘リ縁故ノ遠イ者ノ間ニ左様ナ無

償名義デ財產ヲ讓渡スト云フコトハ、

無イト御認メニナッテ居ルノデアリマ

セウカ

○黒田委員 是ハ前申上ゲマス通り、

實際ニ適用シマス件數ガ非常ニ少ナイ

ノデアリマス、隨ツテ之ニ當ルベキモノ

ハ、ドウ云フモノガ脱稅サレルカト云

セウカ

○高橋委員 一寸御注文ハ斯ウ云

フ風ナ御趣意デシタカ、今日現行法第

二條ノ第三號ヲ適用致シテ居リマスモ

ノハ、ドウ云フ場合デアルカト云フ御

尋デアリマスカ

○高橋委員 サウデス、サウ云フ場合

デス――サウ致シマスト只今ノ御説明

ニ依リマスト、現行ノ第三號ト第四號

トノ關係ニ於テ、若シ此第三號ノ税率

ヲ下ゲナイト云フト、第四號ノ方ニ假

供デアルトカ、或ハ弟デアルトカ云フ

フコトニ付テノ調査ハ、極メテ困難デ
アリマスガ、御趣旨ハ無償デサウ云フ
事ヲスルモノハ、何等カ縁故者デアル
ルコトニナッテ居リマス、是ハ負擔ノ
公正ヲ得ラレナイノデアリマス、是ハ
税率ノ差ガ餘ニ大ナルガ故ニ自然サウ
ナル、ソレデ之ヲ成ベク實際ニ適合ス
ルヤウニシタイ、ソレニハ之ヲ成ベク
接近セシメル、併ナガラ之ヲ全然賣買
ト同ジニスル譯ニハ參リマセヌ、ソレ
デ今回ハ千分ノ四十五ト云フコトニシ
タノデアリマスガ、之ニ依テ事實ヲ偽
テ賣買ニスルト云フヤウナ弊ヲ少クス
タル、理想ハサウ云フ事ノ無イヤウニシ
タイノデアリマスケレドモ、先ヅ其通
リニナリマセヌデモ、之ヲ少クシテ負
擔ノ公正ヲ得セシムルコトニナリマス
ヤウニ考ヘマシテ、下ゲマシタ次第デ
アリマス

○高橋委員 全國的ノモノデナクト

モ、東京邊リニハ多イダラウト思ヒマ

スカラ、明日デモ又其材料ガ若シ印刷

ニデモ出來マスナラバ項載致シタイト

思ヒマス、ソレデナケレバ明日承ッテモ

宜シウゴザイマス、成ベクナラバ、簡単

デ宜シウゴザイマスカラ、書付ニデモ

シテ御渡シ下サレバ便宜ダラウト思ヒ

マス

○黒田政府委員 一寸御注文ハ斯ウ云

フ風ナ御趣意デシタカ、今日現行法第

二條ノ第三號ヲ適用致シテ居リマスモ

ノハ、ドウ云フ場合デアルカト云フ御

尋デアリマスカ

○高橋委員 サウデス、サウ云フ場合

デス――サウ致シマスト只今ノ御説明

ニ依リマスト、現行ノ第三號ト第四號

トノ關係ニ於テ、若シ此第三號ノ税率

ヲ下ゲナイト云フト、第四號ノ方ニ假

供デアルトカ、或ハ弟デアルトカ云フ

セウカ

</

リマス、即チ相續税ト此改正登録税法
兩方對照致シマスル時ニ、相續税ヲ免
ルルガ爲ニ現行法第三號ノ無償ニ依ル
所有權ノ取得ト云フ此條項ニ當嵌メ
テ、遺產相續ヤ或ハ家督相續ト云フヤ
ウナ事ガ行ハレル場合ガ増シハ致スマ
イカ、登録税ノ方ガ税率ガ少イカラ、相
續ヲスルヨリモ無償贈與トシテ登録シ
タ方ガ利益デアル、茲ニ大脱税ガ行ハ
レル、ソレデスカラ私ハ有産階級ノ方
面ニ於ケル脱税ノ獎勵方法ヲ此デ設ケ
ラレルヤウニシカ思ヘナイ、ソレデア
リマスカラ此結果ヲ此儘デ押通シテ行
ツタナラバ、ドウナルカト申シマスト、
是ハ要スルニ千分ノ四十五以上ノ相續
稅ノ率ガアルトスレバ、ソレ以上ノ大
資產家ト云フモノハ之ニ依テ腦稅ヲ完
全ニスルコトガ出來ルト云フ一ツノ方
法デアル、ソレデアルカラ此課稅ニ依
テ利益ヲ受クル者ハ大資產家デアル、
斯ウ云フ工合ニ解セラレルヤウデアリ
マスカラ、今脱税ノ方法ヲ防ギ得ルト
云フヤウナ確乎タル見込ガ立タナケレ
バ、却テ私ハ是ハ大富豪ニ對シテ脱税
ヲ獎勵スル方便ニナル、脱税獎勵方法
ダ、ソレハ相續税ノ脱税獎勵法ニ此法
律ガナルト云フコトノ危險ガアルト云
所ノ、此稅率ヲ千分ノ六十ト云フモノ
ヲ四十五ニ引下ゲタ爲ニ、假裝ノ賣買
ト云フヤウナモノガ無クナッテ、此現行

法ノ第四號ヲ適用シテ相續稅ノ脫稅ヲ圖ルト云フヤウナ事ハ、事實不可能デ、却テ是ガ爲ニ益相續稅ノ脫稅ヲ圖ラシムルヤウナ、相續稅脱稅ノ獎勵法ヲ政府ハ設ケラレル、斯ウ云フコトニナル危險ガアル思フノデアリマス、果シテ此第三號ノ稅率ヲ下ゲタガ爲ニ、第四號ノ假裝賣登記ト云フモノガ茲ニ絶滅スルコトガ出來ルト云フヤウナ確カナ御見込ガアルカドウカト云フコトヲ重ヌテ御伺致シタイト思フ

○黒田政府委員 先程申上ゲマシタ調ガ茲ニ手許ニ在リマシタカラ申上ゲマス、是ハ先程申上ゲマシタヤウニ、東京區裁所デ實ハ一部分デ調ベタ統計デアリマスカラ、勿論全國的ニ申上ゲルコトハ出來ナイノデアリマス、大正十二年ニ取扱ヒマシタ件數ハ十三件アリマスガ、一件ガ遺言デアリマシテ十一件ガ贈與デアリマス、ソレ等ノ事實ヲ見マスト云フト、贈與ガ訴訟和解ニ基モノ、或ハ共有權ノ放棄、是ハ贈與以ノ無償名義デアリマス、國有財產ノ無償拂下ト云フ風ナモノガアルヤウデアリマス、即チ十三件ハ遺言二、贈與十一デアリマス、是ダケシカ實ハ手ニ這入リセヌカラドウゾ御許シヲ願ヒタイ、ソレカラ此稅率ヲ引下ゲルト云フ結果、假裝ノ賣買ニ依テ脱稅ヲ圖ル脱稅ト云フト適當デナイカモ知レマセヌガ、假裝ノ賣買ヲ絶滅スル考デアルカ

ト云フ御話デアリマスガ、是ハ先程申シタ通り是ニ依テ根絶スルコトハ出來ルト云フコトヲ申上ゲルコトハ出來ナモノガ絶體ニ無クナルコトハ出來ナイト思ヒマス、併シ今日ノ如ク是ガ非常ニ多イト云フト、非常ニ苦心ヲシテ迄モサウ云フコトヲスル者ガ出來マスガ、之ヲ少クスル、一方ニ於キマシテ、御心配ニナリマシタヤウナ相續稅ノ關係ヲ考慮致シマスレバ、丁度四十五ニ致シマスレ、バ相續稅ヲ誘致スルト云フ弊モナク、又其差モ相當以前ヨリハ千分ノ十五モ少クナルノデアリマスカラ、是ナレバ先づ實際ノ登記モ相當ニ殖エテ來ル、負擔ノ均衡ヲ得ラレルト思ヒマス、勿論是ハサウナレバ相續稅ノ方ノ脱稅ト云フモノヲ益誘致スルト云フコトニナリマスカラ、相續稅ニ付テ相續稅ノ脱稅ヲ誘起シャシナイカ、實際ニ於テ取調ヲ能クシテ行ケバ宜イデハナイカト云フ御話モアリマシタガ、實一應御尤ト思ヒマス、此登記ノ場合ニ於テ其事件ノ内容ニ立入ッテ、色ニ調査ヲスルコトガ實際上ニ於テ困難デアルト云フコトハ、先程申上ゲマシタヤウニ司法當局トシテ、非常ニ登記所ノ取扱ノ上カラ困難デアル、ソレガ爲ニ早クシナケレバナラヌ所ノ登記ガ非常ニ遲レルト云フヤウナコトヲ生ジマンテ、ト云フコトハ、先程申上ゲマシタヤウニ司法當局トシテ、非常ニ登記所ノ取扱ノ上カラ困難デアル、ソレガ爲ニ早クシナケレバナラヌ所ノ登記ガ非常ニ遲レルト云フヤウナコトヲ生ジマンテ、

親族間ナラ宜イデハナイカト云フ御話モアリマシタガ、是ハ親族デアルカドウカト云フヤウナコトハ、或ハ戸籍謄本ニ依テ調ベルトカ、色ニナコトヲシナケレバナラヌガ、ソレハ非常ニ困難デアルト云フコトモアルノデアリマス、其故ニ、無償名儀ヲ假裝シマシテ或ハ賣買ニナリマスト、尙ホ之ヲ取締ルコトガ困難デアリマス、其故ニ法ノ立前ノ上カラ餘リ差ヲ多クシテ導イテ行クコトガナイヤウニ、適當ナ程度ニ於テ止メル必要ガアルト思ヒマス、サウ考ヘテ斯ウ致シマシタ、之ニ依テ相續稅ノ、大資財家ヲ輕クシテ此方ニ持ッテ來ルヤウナ弊ガアリハシナイカト云フ御話デアリマス、是モ一應御尤デアリマスガ、成程非常ナ多額ノ不動產デモアリマスレバ、此方ヘ持ッテ來ル方ガ率ガ少クナルカモ知レマセヌガ、併シサウ云フ風ナ不動產ノ價格ニ依テ此相續稅ノ如キ稅率ヲ盛ル譯ニ行カヌノデアリマスカラ、先ヅ普通ニ行ハレル中庸ヲ得タル所ヲ見テ行カナケレバナラヌノデアリマスカラ、ソレニハ四十五位デアリマス、レバ先ヅ適當デアラウト云フ風ニ考ヘマシタ、ソレガ爲ニ非常ニ登錄稅ノ脱稅ト云フモノヲ之ニ依テ導クトマデハ考ヘテ居ラヌノデアリマス

脱税ヲ防グト云フノデアリマスガ、税率ノ改正デ脱税ヲ防グト云フコトハ私ハ出来ナイト思ヒマス、又サウ云フコトヲセヌデモ宜カラウト思ヒマス、脱税ハ脱税ヲ防グ方法ガアル、只今登記所デハ中ミ容易ニ調ベラレヌト云ハレマシタガ、實際ニ於テ登記所ナドハ普通ノ期間、又期間ナドノナイモノハ其間際迄引張ツテ置イテ、色ミナ交渉フヤッテ居ルト云フコトハ實際ニ於テ見ル所デアリマス、地方等ニ於テハ中ミ期間ノ無イモノ、或ハ少シ調ベルコトガアレバ隨分長イ間取調ベラ要スルト云フノデ、大分差支ニナルコトガ多イ、サウ云フトヨトヲ實際ニヤツテ居ルノデアルカラ、殊ニ斯ウ云フ極ク僅カナル事件ニ對シテ慎重ニ取調ラシテモ差支ガナカラウト思フノデアリマスノデ、實際斯ウ云フ場合ニ非常ニ取急イデ登記ヲシナケレバナラヌト云フヤウナ場合モ、亦實際ニ於テ尠ナカラウト思フノデアリマス、此相續税ヲ遣レヤウト云フヤウナ場合ハ尠カラウト仰セラレルケレドモ、隨分有利ナ四十五ナドト云フト、家督相續ノヤウナ場合ニ於キマルト、五十ニナツテ、二十萬圓以上ノ金額ト云フヤウナモノニ對シテ——其中ニ十萬圓トカ十五萬圓トカ云フヤウナモノ五十五ニナツテ、二十萬圓ヲ下ゲテ貰ハ此方ニ依テズツト税率ヲ下ゲテ貰ナイト思ヒマス、又サウシテヤルコトガ出来マセウシ、

殊ニ遺産相續ノ如キニ當ソテモ一番輕イ方デモ七萬圓デ始メテ千分ノ五十五、五萬圓ヲ超エルト千分ノ四十五ニナル、七萬圓ノ金額デモ既ニ此ノ方デ登録ヲシテシマウト後ノ遺産相續ナドハシナイデモ宜イト云フコトニナル、隨分相續稅ノ脫稅ヲ圖ルニ都合ガ好イ、斯ウ云フ改正ノ結果ト云フモノハ、ドウシテモ相續稅ノ方ノ脫稅ヲ、今迄圖ラウトシナカツタ者ヲ刺戟シテ、圖ラシムルヤウニナルダラウト思フ、先ノ例ニ依リマストサウナル、今迄ハ千分ノ六十デアツタカラ脱稅ガ多カツタケレドモ、千分ノ四十五トルナラバ脱稅ヲ尠ナカラシメルト云フ仰セデアル、ソレナラバ今迄此千分ノ六十デ以テ相續財產ヲ多ウカラシメネバナラナカツタ、千分ノ四十五迄引下ツタカラ、相續財產ガ少クテモ脱稅ノ利益ヲ受ケルカラト云フノデ、相續稅ヲ納メル者ガ此方法、假裝的方法ニ依テ、サウシテ此相續稅ヲ脱稅致スト云フヤウナ機會ガ多クナルト思フ、ソレデアルカラ今迄ノ政府委員ノ御答辯ニ依ルト、登錄稅ノ方面ハ是デ輕クナツテ、脱稅ノ機會ガ少クナル、稅率ヲ低クスレバ少クナルト云フヤウナ論法デアルガ、今度ハ相續稅ノ方ノ脱稅ヲ刺戟スルト云フ機會ヲ——稅率ヲ低クシタ爲ニ今度ハ相續稅ノ脱稅者ガ利益スル所ガ多イ、ソレデアルカラ相續稅ノ脱稅ヲ今度ハ獎勵スルト云フコトニナル、今日相續稅ト云フモノハ稅

五、千分ノ四十五以上ニ當ルモノハ其場合ニ於テ、死亡前ニ於テ贈與シテ、千分ノ四十五デ以テ輕減ヲ圖ルト云フヤウナコトニモナリマスガ、今迄申スヤウニ今日ハソレヨリ一步進ンデ千分ノ三十五迄行ツテ居ル、ソレデ贈與デアルナラバ贈與ニ於テ課稅ヲシタイ、ソレニハ適當ナ税率ニスルガ宜カラウ、千分ノ四十五ト云フコトニシテ、今後ハ千分ノ三十五デ納メテ居ツタノヲ千分ノ四十五ヲ納メシメヤウト云フ趣旨デアルノデアリマスカラ、脱稅ヲ助長スルト云フ方法デハ寧ロナイノミナラズ、此相續稅ノ方ニ於キマシテ贈與ヲ致シマスニ付キマシテハ、是ハ高橋サンノ御話ニナッタヤウナ、若シ財產ヲ持ツテ居リマス者ガ贈與致スト致シマスガ、之ヲ一度ニ贈與スルト云フコトハ少々行ハレヌノデアリマス、分割シテ贈與スルコトガ屢行ハレルノデアリマス、ソレナラバソレヲ相續稅ノ方デ何トカシテ抑ヘタナラバ宜イト云フコトニナルガ、是ハ相續稅ノ方デナク、今日ノ立前デハ登錄稅ノ方デ來テ居ルノデアリマスガ、分割ヲシテ若シ贈與致スト云フコトニナリマスト云フト、矢張二十萬圓ノモノデアリマシテモ、十萬圓宛ヲ贈與スルト云フヤウニナレバ、十萬圓ト云フ低イ税率ニナツテ來ルノデアリマス、サウ云フヤウナコトモアルノデアリマスカラ、強チ是ガ直ニ今日千分ノ六十ヲ納ムベキモノデアル、千分ノ六

十ナラバ生前ノ贈與ト云フコトヲ抑ヘタノアルガ、千分ノ四十五ニ至^ツテハソレヲ抑ヘズシテ、千分ノ四十五ニ持^ツテ來テ相續稅ノ方ノ輕減ヲ圖ルト云フコトニハ必ズシモナラヌ、其位ノモノデアルナラバ、サウ云フ惡イコトヲスルナラバ、今迄ハ千分ノ三十ヲ持^ツテ來タモノデアリマス、ソレヲ成ベク矯正シテ行カウト云フコトデ、茲ニ適當ノ稅率ニ直シマシタノデアリマス、然ラバウニ依テ總テノ脫稅ヲ防止シ得ルカト申シマスト、是ハ先程申シマシタヤ困難デアリマセウ、併シナガラ成ベク此法デ以テサウ云フ脫稅ニ導クヤウナコトハ避ケテ、之ヲ緩和シテ置イテ、成ベク實際ニ實行ヲスルヤウニスルト云フコトガ、立法ノ方カラ見マシテモ注意シナケレバナラヌコトデハナイカト思ヒマス

○高橋委員 餘リ諄イヤウデアリマスガ、私ハ此問題ニ付テハ今黒田政府委員ノ仰セニナルヤウニ此方デハ理解シナイノデハナイ、理解シテ居ルカラ益疑問ヲ生ズルノデアリマス、假裝賣買ニ依テ、詐稱名義ニ依テ、所有權ノ移轉ト云フコトヲ逃レルト云フヤウコトハ、先ヅ御預リニシテ置イテモ——私ハ出來ヌト思フノデアリマスケレドモ、御預リニシテ置イテモ、相續ノ關係ニ於テハ

トヲ免レルコトハ容易デアルト云フコトハ、是ハ政府委員モ御認メデアラウト思フ、今迄モサウデアッタデヤナイガ子供ニ以テ行^ツテ資產ヲ相續サセルト云フ場合ニ當^ツテ、相續スルト相續稅ガ取ラレルカラ、其前ニ當^ツテ資產ヲ贈與スル、無償デヤルト云フコトハ誰ニ憚ルコトモナイ、公明正大ニ無償デヤル、無償デヤルト四十五ニナル、相續資產ガアルナラバ四十五デドン^ヽ無償デ贈與ガ出來ル、サウスルト相續資產價格ガ減ルト云フコトニナル、サウ云フコトヲ防グト云フナラバ、寧ロ只デヤルヤウナ、無償ノ贈與ハ社會公共ニモ關係ガナイ、社會公共ニ關係ガアルバ、ソレ^ヽノ方法デ免稅モサレマセウ、私有財產ヲ無償デヤルト云フコトハ、六十デ足ラナカッタナラバ七十、八十ニシテモ何等社會政策上差支ナ

○黒田政府委員 先程私ガ申述ベタ中ニ少シ誤^ツテ御解釋ニ相ナ^ツタヤウナ個所モアッタヤウデアリマスガ、是ハ此度申述ベル所デ訂正ヲ致シマスルガ、大體論ト致シマシテ高橋君ノ御述ニナル所ハ、相續稅ガ課セラレルト云フヤウニナリマスト云フト重クナルカラシテ、寧ロ之ヲ贈與ト云フコトデ立派ニ贈與ノ形デヤッテ、ソウシテ千分ノ四十五デ以テ課稅ヲ受ケテ、遁レルト云フ弊ヲ助長スルモノデアルト云フコトガ、ドウモ御尋ノ根本ニナ^ツテ居ルヤウデアリマス、併シ之ニ付キマシテハ先程モ申上ゲマシタヤウニ、サウ云フヤウモノハ、必シモ今日二十萬圓ナラ二十萬圓ト云フ金錢ヲ一時ニ纏メテ贈與ヲ致シマスト、重イ稅率ニナルノデ、寧ロ之ヲ度ニ分割シテ贈與スルト云フコトガ起ルノデアリマス、是ハ必シモ脱稅ノ趣旨デハアリマセヌ、子供ニ資產ヲヤルノニ、自分ノ資產ニ特ニ收入ノアッタ時ニ、之ヲ其時々ニヤルト云フ

コトハ、是ハ必シモ脱税デナクシテ適當ノ處置カモ知レマセヌガ、併シソレニ依テモ分割シテヤッタ結果ハ税率相續税法ノ第二十九條ニ於キマシテハアリ得ルノデアリマスルカラ、權衡ヲ見マシテ此不動産ノ登録税ヲ決メマスル場合ニ於テモ、必シモ此多クノ財產、纏々タ財產ナラバソレト同ジ税率ヲ課ケルト云フコトデナクトモ、大體此贈ヤウニ、權衡ヲ見マシテ決メマシタ方與サレマスル相續ノ場合ニ於テモ起リ得ル、普通ニ多クノ場合ニ中庸ヲ得ルガ宣シイカト思フノデアリマス、ソレガ千分ノ四十五デアリマスレバ、最モ多ク起ル所ノ中庸ヲ得タモノデアラウト考ヘマスカラ、千分ノ四十五ノ税率ヲ實際ニ於テ行ハレマスナラバ、之ニ依テ相續税法ニ於テモ適當ニ權衡ヲ得ラレマスルシ、又相續税ノ脱税ヲ圖ルト云フコトモ起ラナイト云フヤウニ考ヘルノデアリマス、ソレカラ今日カラ見マシテモ、千分ノ三十五ノ假裝シテ居ルモノハ幾分デモ、全部トヘ行キマセヌデモ、之ヲ匡正スルコトガ出来マスレバ、是ハ負擔ノ公平ノ上ニ喜バシイ結果デアラウカト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス

ガ六十デアツテ今度四十五ニシタ、今マ
デ相續稅ノ方面デ脱稅ヲ圖ラウトシタ
者ガ、今度ハ四十五ニ下グラレタカラ
ト云フコトデアリマスガ、サウ云フ御
議論ハ吾ニハ容易ニハ受取ルコトガ出
來マセヌ、矢張此相續稅ノ方面ニ於キ
マシナハ、下ガレバ下ガル程益脱稅ヲ
圖ル機會ガ多クナル、四十五位ニナッタ
カラ脱稅ヲ圖ラヌデモ宜カラウト云フ
風ニハ必シモ言ヘナイ、是ハ先程モ由
上グマシタガ、四十五ト云フノハ五萬
ヲ超ユルモノト云フモノガ一番安イ
或ハ相續者ノ資格ニ依テハ四萬圓ヲ超
ユルモノモアレバ、或ハ四十五ト云
モノハ二萬圓ヲ超ユルモノモアル、ソ
レデスカラ多クノ資產家ハ殆ド大手ヲ
振ツテ脱稅ヲスル、今マデ賣買ニ依リマ
スト、相續稅ノ第二十三條ニ依テ不動
産或ハ船舶以外ノモノガ五百圓以上ニ
ナルト、無償デ贈與シタモノハ遺產相續
ノ例ニ依テ課稅スルト云フヤウナコト
ガ書イテアルカラ、ソレデ取締ルコト
モ出來マセウケレドモ、斯カル相續稅
逋脱ノ場合ハ何等取締ルコトガ出來
イ、今度ハドンヽ相續稅ノ脱稅ヲ圖
ルト云フコトニナルト、法ノ威信モ何
デアツテ、サウ云フコトヲ知ツテ改
行フト云フコトハ、資產家ノ擁護ニナ
ルト言ツテモ辯解ガ出來ナイデハナイ

カト思フ、千分ノ六十ヲ四十五ニ減シ
タカラ、サウ云フコトハアルマイトノ
仰セデアリマスケレドモ、ソレデハ益
其弊ガ助長サレル、若シ是ガ六十デア
タモノヲ百ニシタ、ソレダカラ最早サ
ウ云フ脱税ヲスル機會ハ小クナルデア
ラウ、斯ウ云フコトデアルナラバ私聞
エルデアラウト思ウガ、ソレヲ脱税ノ
機會ガ少クナラウト云フコトヲ仰シ
ヤルノハ、私ハ異ナコトヲ承ルモノデ
アルト思フ、ソレデ黒田政府委員非
常ニ眞面目ニ御答辯下サル御誠意ニ對シ
テハ私ハ敬意ヲ表スルケレドモ、或ハ
此改正法案ヲ擁護スル爲ニ間違ッタ
トヲ強辯シテオキデニナルノデハナイ
カ、私ノヤウナ初陣者ハ此位丁寧ニ言
タラバ頭ガ混亂ニ陥リ、意識ガ錯覺ニ
陥ツテ降參ヲスルデアラウト云フヤウ
ナコトデ、御答辯ヲナスツテ居ラッシヤ
ルノデハナイカト疑ハルルノデアリマ
ス

不動産ニ付キマシテハ、第二十三條ニ依テ贈與シタ場合ニ於キマシテハ、不動産ニ付テハ登録税ヲ課シテ相續税ヲト云フ立前ニナツテ居ルノデアリマスカラ、不動産ヲ贈與スル、例へバ親族間ニ贈與スル場合ニ於テハ登録税ガ課カルダケデ、相續税ハ課ケナイノデアリマス、ソレ故ニ之ヲ千分ノ百ニスルトカ、或ハ百五十二スルトカ云フコトニナレバ、是ハ餘程重クナツテ、相續税ニ代ハル税ニナリマスケレドモ、ソレヲ實際納メテ吳レレバ非常ニ重イ負擔ヲソコニシタコトニナル、高橋君ノ御希望ノ通り重イ負擔ヲスルコトニナル、併ナガラ税率ガ高イ爲ニソレニ代ハルト云フ場合、假裝シテ賣買ニシテシマフト相續税ハ課カラナイ、サウシテ賣買假裝ノ下ニ千分ノ三十五ト云フ税ガ合ニ於テハ遺產相續税ガ課ツテ其間ニ權衡ヲ失シテ來ルノデアリマス、ソゴデ此六十二シテ權衡ヲ取ラウトシマスト、六十デハ餘リ開キガアル爲ニ、實際ニ於テ脱稅ヲ誘致スルコトニナル、又有價證券ニシテモ、有價證券十萬圓持タルノデハナク、ソレヲ假ニ二萬圓本牟賠與スル、又翌年之ヲ二萬圓贈與スルテ居ルモノガ必シモ之ヲ一時ニ贈與スル云フヤウナコトニナリマスト、其二

萬圓、二萬圓ノ相續稅ガ課ツテ來マスカ
ラ、十萬圓ノモノヲ贈與スルト致シマ
シテモ、結局ハ此二萬圓ノ税率ト云フ
コトニナル、サウ云フ相續稅法ニ於キ
マシテモ規定ニナッテ居リマスカラ、不
動產ノ價格ガ非常ニ高ケレバ非常ニ高
イ税率ヲ登錄稅法ニ於テ課ケルト云フ
マデノ必要ハナイノデアリマス、ソコ
デ此千分ノ四十五デアレバ賣買トノ間
ニモ權衡ガ取レ、サウシテ不動產以外
ノ二十三條ノ贈與ノモノニ付テモ權衡
ガ取レルト思ヒマス、サウ云フ趣旨カ
ラ出來テ來ルノデアリマス、ソレハ繰
返シテ申上ゲタ通リデアリマス、是デ
大體權衡モ取レル、併シ今日絕對ニ防
止出來ルト云フコトハ申シマセヌ、又
絶對ニ防止出來ルトモ私ハ考ヘテ居リ
マセヌガ、之ニ依テソレ等ノ弊ヲ匡正
シテ行クコトガ出來ルダラウト云フ風
ニ考ヘテ居ルノデアリマス

ニ日讓リタイト思ヒマスガ、此砂糖消費稅ハ色ニ混雜致シテ一寸説明ヲ承リ又表ト比較對照致シタダケデハ、私ニハ能ク分リ兼ネルノデアリマスガ、之ヲ能ク考察致シ、審議致シマスル必要上、此稅ガドウ云フ風ニナッテ居ルカト云フコトト、砂糖ハ即チドノ位我國ニ於テ消費サレルカト云フヤウナコトガ分ッテ居リマスカ、ソレニ對シテ例ヘバ第一種ノ甲ノモノト乙ガドレ位ノ輸入ニナッテ居ルカ、ソレデ只今ノ稅率ハドノ位ニナッテ居ツテ、改正シタ稅率ハドウナッテ居ル、斯ウ云フヤウナコトヲ能ク比較對照致シタイト思フ、自分デ作リタイト思ヒマシタケレドモ、暇ガナイカラ作レマセヌデシタガ、政府デ御作リニナレバ譯ハナイト思ヒマス、サウ云フ表ヲ至急ニ作ッテ御廻シ願ヒタイト思ヒマス、吾ミノ考ヘマスル所ニ依ルトドウモ消費ノ多イ砂糖ニハ餘リ稅率ヲ低メナイデ、消費ノ少イモノニハ稅率ヲ輕減致シテ、サウシテソヨリ一寸濶シタト云フヤウニ見エテ、其以外ドウモ考ヘラレナイ、或ハ砂糖消費稅ナドニ付テモ、是ハ消費者ヲ目標トシテヤルベキ筈デアルガ、之ヲ結果カラ見ルト、消費ノ最モ多イ砂糖ノ稅金ガ輕減サレテ居ナイ、即チ九圓ノモノガ八圓三十五錢ニナッテ、僅カ六十五錢位デ餘リ輕減ニナッテ居ナイ、ソレデアルカラシテ是ハ消費稅ノ整理ト云フコトニ名ヲ藉リテ、我國ノ砂糖業者ヲ

保護サンレタノデアルカドウカ、サウスレバ又ソレハ産業ノ保護政策デスカラ、其方ノ大ナル理由モアルダラウト思フ、併ナガラ消費者ノ負擔輕減ト云フ點カラ言ヘバ、砂糖ハ普遍的ニ一般ニ用ヒラレルモノデアル、殊ニ安イ需要ノ多イ砂糖ニ付テ多ク下ゲテ貰ヘレバ宜イガ、其方ハ餘リ下ゲテナイ、尤モ樽入黒砂糖ハ半分ニモナッテ居ルケレドモ、是ハ需要ガ必シモ多イトハ思ハレナイノデアル、又輸入關係カラ見テモ、瓜哇ナドカラ來ル「ザラメ」ナドハ此方ノ關係ガ薄クシテ、内地デ出來ルモノ、臺灣デ出來ルヤウナモノニ對シテソレバノ手加減ガサレテアルヤウニ考ヘラレル、斯ウ云フ所カラ見テモ、消費者ノ利害關係ヲ考ヘラレタヨリハ、寧口我國ノ砂糖業者ノ保護ト云フモノヲ考慮サレテ稅額ノ改正ヲ爲サタノデハナイカ、ソレカラ關稅ノ關係モアルガ、ソレト兩方ヲ對照シテ見マスト、サウ云フ疑ヲ持ツノカハ知レマセヌガ、ドウモ御説明ヲ承ツテ見テモ、サウ云フ感じガスルノデアリマスガ、政府ハ消費者ノ負擔ヲ輕減スルト云フ考ヨリシテ此改正ヲ爲スッタノデアルカ、或ハ當業者ヲ保護スル爲ニ此改正ヲ爲スッタノデアルカ、其點ニ付テ承リタイト思ヒマス

表ハ早速拵ヘテ差上ゲルコトニ致シマス、御手許ニ輸入ノ數量、或ハ生産ノ數量ノ數字ノ表ハ差上ゲテハアリマスガ、ソレハ數年ニ亘テ書イテアルモノデスカラ、之ヲ或ル年度デ以テ兩方併セテ見易イヤウナモノヲ拵ヘテ差上グマス、ソレカラ砂糖ノ消費稅竝關稅ニ關係シテ、消費者ノ負擔ニ付テ餘リ考慮ヲ拂ハズシテ、砂糖ノ產業ノ方ニ重キヲ置イテ居リハセヌカト云フ御疑ノ御尋ニアリマシタガ、砂糖消費稅、砂糖關稅ニ付テハ、モウ少シク詳シク全體ニ亘ツテ御説明申上ゲタイト考ヘテ居ツタノデスガ、只今マテ大體ノ御質問ト考ヘテ差控エテ居リマシタガ、只今デ宜シケレバ申上ゲマスガ、若シ今日時間ガナケレバ、此次ノ初メニデモ一應詳シク申上ゲテ御了解ヲ願ヒ、又ソレニ付テ御質問ヲ願ヒマセヌケレバ徹底シナイトモ考ヘテ居リマス、併シ只今御尋ノ大體ノ點ニ付テ申上ゲマスレバ、今回ノ關稅ニ對シテモ、消費稅ニ致シマシテモ、是ハ單リ生産者ト云フモノノミニ重キヲ置イテ居ルト云フノデハナクシテ、大體ノ説明ノ時ニモ大藏大臣カラモ申上ゲタ通り、近來日本ノ粗糖ノ生産ト云フモノモ長足ノ進歩ヲ致シマシテ、臺灣ニ於テモ八億斤内外ト云フ砂糖ノ生産ヲ見ルニ至ツタノデケレドモ、其大部分ヲ満スト云フ狀況

ニモナツテ居ルノデアル、是ハ今日マデノ關稅、即チ輸入ノ最モ多クサレマスル瓜哇島ノ砂糖ニ對シテ非常ナル關稅ノ保護、又產業ノ助長等ニ依テ此發達ヲ見テ居ルノデアリマス、是等ノ粗糖業ニ對シテハ、今日尙ホ現行ノ保護ノ程度ハ必要デアラウト云フ見地カラシテ、關稅竝消費稅ヲ考ヘテ居リマス、又精製糖業ニ付テモ、今日殆ド是ハ輸入ト云フモノヲ妨ギマシテ内地ノ需要ニ應ジテ居ルノデアリマス、尙ホ内地ニ對シテモ年々相當ナル輸出ヲシテ居ルヤウナ狀況デアリマスカラ、是等ノ需要ヲ滿シマスルノミナラズ、海外ニ對シテモ年々相當ナル輸出ヲシテ居ル精製糖業ニ付テモ、外國ヘノ輸出ハ成ベク便宜ニシテ行ク、サウシテ精製糖ノ事業ニ付テモ適當ノ保護、即チ今日出來テ居リマス所ノ、程度ノ保護ハ存續スルコトガ必要デアラウト云フ見解ヲ持ツテ居リマス、其上ニ於テ成ベク國內ニ於ケル消費者ノ負擔ハ出來ルダケ輕減シタク、一面財政ノ許ス範圍ト云フコトモアリマスガ、ソレ等ノ關係ニ於テ出來ルダケ負擔ノ衡平ヲ圖ルト同時ニ、成ベク負擔ノ輕減ヲシタイト云フ趣旨ヲ以テヤッタノデアリマス、併ナ種類ニ對シマスル稅率ノ按配ヲシテ居リマスガ、其根本トシテノ考ハ前申上ラ、ソレ等ノ點モ考慮シテ、ソレバノゲマスルヤウニ、粗糖業、精製糖業竝

セウカ
カルコトデアリマスガ、只今申上ゲマ
シテヤツテ居ルカニ付テモ、是ハ詳細申
タノデアリマス、ソレハドウ云フ風ニ
上ゲタイト思ヒマスガ、相當時間モ掛
消費者ト、此三ツノ方面ニ對シテ、前申

稅ニ之ヲ見マシテモ、其品物ヲ直接消費ニ當テルニ致シマシテモ、是ガ八圓ノ稅金ガ課カルト云フコトニナリマスカラ、折角白ク出來タノ所ノ砂糖ニ色彩著ケテ内地ニ持ツテ來ルト云フコトニナリマス、二種糖トシテ内地ヘ持ツテ來ルノデアリマス、二種糖トシテ持ツテ來レバ關稅ガ三圓十五錢、直接消費ニ當リマンシテモ五圓ト云フモノニナリマスカラ、サウ云フ風ナ不自然ナコトガ行ハレル、其結果トシマシテ瓜哇デ折角出來タ世界的商品ト云フモノノ買付ガ出來ズ、日本ノ商人ハ左様ニ色著ケテサレマシタ所ノ第二種砂糖ノ註文ヲ致スノデアリマスカラ、其消費ノ範圍モ狹メラレル、隨ツテ何時ニテモ買付が出來ナイ、先物ノ註文ヲシナケレバナラヌ、又御互ニ内地商人ノ競争ニナリテ、日本向トシテ持ニ使ハレマスカラ、其範圍モ狹メラレマス結果トシテ、元來ナラバ良ク出來タモノニ不純ナ色ヨリ著ケ不純物ヲ混ゼテ、値段ガ下落シテ居ルニモ拘リマセズ、其取引價格ハ良イ所ノ中双ヨリモ高クナル、或ハ中双ト同ジャウナ開キノナイ値段ニナツテ居ルカラ、非常ニ貿易上ニ於テモ不利益ナ金ヲ拂ハナケレバナラヌコトニアルカラ、非常ニ貿易上ニ於テモ折角出來タ物ヲ造ル上ニ於テモ非常ナ不利益ガアシテ製造スルノデアリマスカラ、精製ヲ來シ、製造上ニ於テモ折角出來タ物ニ色著ケラシタ物ヲ以テ、之ヲ原料トシテ製造スルノデアリマスカラ、精製

ル、精白スル上ニ於テ或ハ骨炭ノ力ヲ
要シ、製造操作ノ上ニ手數ヲ要スル爲
ニ、非常ニ無益ナ經費ヲ要スルト云フ
ヤウナ事情ガアリマスノデ、先づ第一
ニ之ヲ除キマシテ、自然状態デ取引サ
レルヤウニスルコトガ出来ルト云フノ
デ、關稅ニ於テ二種、四種ヲ併セマシ
テ、茲ニ一ツノ稅ヲ課スルコトニ致シ
マシタ、ソレニハ稅率ヲ如何ニ定メル
カト云フコトガ問題デアル、此問題ニ
付テ先程申上ゲマスヤウニ、今日ノ臺
灣ノ粗糖業ガ今日ノ稅ニ依テ保護サレ
テ居ルノデアリマスカラ、此程度ヲ變
ヘナイヤウニシタイト云フコトデ稅率
ヲ見タノデアリマス、併ナガラ特ニ
今回ノ改正ニ依リマシテ、是等ノ製造
業ヲ特ニ保護シヤウト云フ趣旨ハ毫モ
ナイノデアリマス、今日ノ程度ヲ維持
スルニハ如何ナル稅率ガ適當デアラウ
カト云フコトニ付テ、十分考究ヲ致シ
タノデアリマス、然ラバ今日二種、三
種、四種ト分レテ居タモノガ、一ツニ
ナレバ、入ッテ來ル砂糖ハドンナモノカ
ト云ヘバ、ソレハ當然瓜哇デ出來ル所
ノ自然ノモノガ來ル、ソレハ今日ノ四
種デアリマス、二十一號内外ノ物ガ來
ルコトニナツタノデアリマス、其物ガ入
ツテ來ル、ソレナラバ、今迄ナラバ色著
ケシマシタカラ、入ッテ來ル原料ニ三圓
十五錢ノ關稅ヲ課ケテ居ル、然ルニ今
度ハソレガ變ツテ四種ノ砂糖ガ來ル、四
種ノ砂糖デアリマスレバ、今日ノ稅率

ニ於テハ四圓二十五錢ニアリマスケレドモ、併シ今迄入ッテ來タモノハ三圓十五錢ニアッタ、瓜哇カラ入ッテ來ルモノニ三圓十五錢ノ關稅ヲ課ケテ、今日ノ臺灣ノ砂糖ガ出來テ居ルナラバ、三圓十五錢デ宜イノデハナイカト云フ一ツ疑ガ起ルノデアリマスガ、今日臺灣ノ砂糖ト云フモノガ瓜哇ノ砂糖ト御互ニ競争スル上ニ於テ、臺灣ニ於テモ事實今日ノ三種、四種ノ砂糖ガ出來ルノデアリマス、出來ルニモ拘ラズ、ソレハ矢張瓜哇ノ砂糖ト競争スル爲ニ——消費稅ガ違ヒマス爲ニ、之ヲ色著ケニシテ二種ノ砂糖ニナッテ居ル、即チ御互ニ出來タ其儘デナク、色著ケヲシタ所ノ二種ノ砂糖トシテ競争シテ居ルノデアリマス、即チ今迄著物ヲ著テ競争ヲシテ居ツタノデアリマス、其競争ハ三圓十五

錢ノ程度デ適當ニ保護サレテ居ツタ、然ルニ今度ハ其著物ヲ兩方トモ脱ギマシテ裸體ニナッテ、四種ノ砂糖トシテ御互ニ競争スルト云フコトニマスト、其著物ヲ著テ居ツタ時代ニ於テハ、其砂糖ガ瓜哇デ出來ルモノト、臺灣ニ出來マスモノトノ間ニ、或ハ結晶ノ有利ナ點ガアッタノデアリマス、其有利ナ點ガナクナッテ御互ニ裸體ニナルノデアリマスカラ、サウナレバ三圓十五錢ノ程度デハ保護率デナクチャナラヌ、併ナガラ今日ノ出來ナイ、幾分カ或モノヲ加ヘタ稅

四種ノ四圓二十五錢ト云フ必要ハナリ、併シ今迄入ッテ來タモノガ多イノデアリマス、ソレ故ニソレ等ノ點ヲ考ヘマスト、テ瓜哇ニ出來ル所ノ中双ト、臺灣ニ出来ル所ノ中双ト云フ結果ニナッタノデアリマス、ソコデ四圓六十五錢ニ六十五錢ヲカラウト云フ結果ニナッタノデアリマス、ソコデ四圓六十五錢ニ六十五錢ヲ大體六十五錢ダケヲ加ヘタナラバ宜シテ、瓜哇ニ出來ル所ノ中双ト、臺灣ニ出来ル所ノ中双ト云フモントラ裸體デ競争サセマス場合ニ於テ、ドノ程度ノ稅率ガ必要デアルカ、即チソレ等ノ色々ノ點、或ハ生產ノ點トカ、種ニナモノヲ考究致シマシタ結果、三圓九十五錢ナラバ丁度今日ノ程度ニ出來ルト云フコトデ、三圓九十五錢ニシタノデアリマス、サウシテ三圓九十五錢ニ致シマス、サウシテ三圓九十五錢ニ致シマス、ソレガ原料トシテ使ハレル今日用キラレテ居リマス所ノ砂糖、即チ二種ガ——三圓十五錢ノ關稅ヲ拂ッテ來テ居ルモノガ、原料トナッテ是ガ五種ノ砂糖ニナッテ居ル、サウシテ五種ノ砂糖ハ關稅ニ於テ四圓六十五錢ノ關稅デ以テ、丁度海外ノモノト均衡ヲ得テ居ル、所ガ原料ガ八十五錢上^上テ參^上タノデアリマスカラ、精製糖ト致シマシテモ、生産費ニソレダケガ加ハルモノト見ナケルベナラヌ、サウナレバ五種ノ關稅ノ四圓六十五錢ト云フ保護ハ、足リナクナルト云フ結果ニナリマスノデ、八十五錢ヲ加ヘルト云フコトガ直グ來ルノ

ト云フコトニ致シマシテ、成程多少海外カラ入^上テ來ルモノノ防止ニハナリマシテモ、其結果或ハ消費者ノ負擔ヲ増スト云フヤウナコト、即チ價格ヲ引上ゲルヤルノデアリマスカラ、第一種ニ付キマシテノ負擔ヲ輕減シャウト云フ趣意ニモ反スルノデアリマスカラ、第一種ニ付キマシテノデアリマス、サウシテ此消費稅ノハ現行ノ稅率ヲ据置クト云フコトニ致シテモ、是モ矢張或ハ他ノ砂糖ト混ゼマシテ今日普通ニ下層階級デ使ハレテ居

リマス所ノ花見デアルトカ、或ハ天光ト云フ風ナ砂糖トシテ使ハレルノデアリマス、サウ云フ風ナ事情カラ是モ相當輕減スル、サウシテ沖繩ノ樽入黒糖ヨリモ幾分カ、消費ノ階級ガドチラカト言ヘバ、少シ資力ノアル方ニアルト考ヘマスカラ、其輕減ニ付キマシテモ沖繩ノ黒糖トハ少シ差等ヲ設ケタノデアリマス、第一種ノ方ニ付テモ同ジヤウナ趣意デ輕減ヲ致シテ居リマス、二種、三種、四種ハ、關稅ニ於テノ一ツニ致シマシタガ、消費稅ニ於キマシテハ之ヲ二ツニ分ケテ居リマス、是ハ先ヅ現行五種ノ方カラ説明ヲ申上ゲタ方ガ便宜デアリマスガ、現行ノ五種ノ所謂精製糖ノ方ハ、關稅ノ方ニ於キマシテ六十五錢高マッタノデアリマス、ソレ故ニ若シ關稅ト云フモノガソレダケ價格ヲ引上ゲルモノトモ考ヘマセヌ、此事ハモウ既ニ五一議會ノ關稅ノ審議ノ時ニサウ云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、關稅ハ一ツノ障壁デアッテ、必シモ市價ノ價格ヲ引上ゲルモノトハ考ヘマセヌ、併シ假ニ市價ガ上リマシタ場合ニ於テ、消費稅ヲ其儘ニ据置キマセヌト云フト、消費者ノ負擔ガ増スノデアリマスカラ、ソコデ消費稅ハ其限度ヲ八圓三十五錢ト云フコトニ致シタノデアリマス、ソレニ依リマシテ假ニ關稅ノ額ガ上リマシテモ、消費者ノ負擔

ニハ現在ヨリ影響ヲ及ボサナイ、然ルニ關稅ト云フモノハ一面ニ於テ障壁デアリマシテ、必シモ市價ガソコマデ上成ベク下ゲテ來ル、御互ニ内地ノ生産業ガ競争シテ下ゲテ參ル、下ゲテ參リマシタ場合ニ於テハ——消費稅ノ方ノ減ツタモノハ直接消費者ノ負擔ヲ輕減スルノデアリマスカラ、五種ノ砂糖ニ付テモ今日以上ニ上ラヌノデ、寧ロ下ゲル傾キヲ持ツテ居ルト云フコトニナルノデアリマス、今日消費者ノ負擔ヲ輕減シヤウト云フ趣旨モソコニアル、高橋君ノ御質問ニナリマシタ五種ノ砂糖ハ、一番今日ノ所消費ガ多イ、然ルニソレノ輕減ガ無イト云フ風ナ御議論モアリマシタガ、成程今日ノ消費ハ五種ノ砂糖ガ一番多イノデアリマス、併ナガラ此五種ノ砂糖ニ付キマシテモ、前申上ゲルヤウニ相當是ハ下ガル力ヲ持ツモノト考ヘテ居ルノデアリマス、ノミナラズ五種ノ砂糖ハ、今日ニ於キマシテハ是等ノ意味デ砂糖ノ消費ガ殖工テ參ルト同時ニ、矢張上級ニ向ツテ行クノ良イモノヲ用ヒルコトニナルト思フノデアリマス、併ナガラ今日ノ現狀カラ見マスレバ、五種ノ眞白ノ砂糖ト云フモノハ、相當資力ノアル階級ニ於テ主トシテ消費サレルモノデアリマス、之ニ就キマシテハ、サウ一種ノ砂糖ホ

ドニ減ズル必要モナカラウト云フ考カ
ラ致シマシテ、之ニ就テハ先ヅ消費稅
ニ於テハ六十五錢ヲ減ズル、ソレカラ
關稅トシテハ成ベク下ガルト云フコト
ノ働キガ出來ルヤウナ餘地ハ與ヘタノ
デアリマス、サウシテ二種、三種、四種
ハ關稅ニ於テ合一致シマシタガ、消費
稅ニ於キマシテハ、現行ノ趣旨ト云フ
モノヲ成ベク尊重致シマシテモ、二種、三
種ヲ併セテ、四種ヲ殘シテ稅率ハ盛ツタ
ノデアリマス、是ハ二種、三種、四種ヲ
一ツノ關稅ニ致サウトシテモ、五種ガ
先程申シマシタヤウニ八圓三十五錢デ
アル、一種ノ方ガ二圓五十錢デアルト
云フコトニナリマスト云フト、其間ニ
於テ其稅率ヲ五種ノ方ニ近付ケルト云
フコトニ致シマスト、今日五圓、七圓、
八圓トアリマス消費稅ニ於キマシテ、
五圓ヨリ以上ノ稅率ニスルト云フコト
ニナリマスト、二種ノ砂糖ト云フモノ
ガ高クナル、今日五圓ノ消費稅ヲ取ッテ
居ルノヲ、之ヲ高イ消費稅ヲ取ルトナ
ルト、ソレハ消費者ノ負擔ニナルト思
フ、成程品質ハ良クナリマセウ、品質ハ
良クナリマセウケレドモ、消費者ニ於
テ良イモノヲ使ッテ、サウシテ高イ稅金
ヲ拂フト云フコトニ相成リマスルカ
ラ、寧ロ是ハ適當デナカラウ、然ラバ稅
率ノ五圓ト云フモノヲ引上ゲナイト云
フコトニシマスト云フト、是ハ今日ノ
四種ト云フモノハ五圓ノ消費稅ニナリ
マスカラ、今度精製糖ノ方ノ八圓三十

五錢ノ消費稅ノ課カルモノヲ引下ゲテ
行ツテ、消費ヲ下ニ移スト云フ働キガ起
ルコトニナルノデアリマス、デ引下ゲ
ルト云フコトモ、先程モ申シマシタヤ
ウニ、精製糖業ニ付テモ今日ノ程度ヲ
維持シヤウト云フ趣旨カラ言ヘバ、精
製糖業ニ對スル非常ナ脅威ニナッテ來
ル、又其消費モ之ヲ下ノ惡イ方ニ引下
ゲテ來ルト云フ働キモアルノデアリマ
スカラ、是ハ避ケナケレバナラヌ、サウ
云フコトニナリマス、ノミナラズ此臺
灣等ニ於テ出來マス所ノ原料糖ヨリ考
ヘマシテ、寧口是ハ四種ヲ一ツ殘シマ
シテ、四種ニ付キマシテハ五圓ノ精製
糖ヲ脅威シナイ程度ニ於テ適當ナ差ヲ
置クト云フ上カラ、今日ノ現行法ト同
ジヤウニ一圓ノ差ヲ設ケマシテ、之ヲ
七圓三十五錢ト致シマシタ、サウシテ
二種、三種ヲ併セマシタモノヲ現行ノ
消費稅ノ五圓ト云フモノニ殘シタノデ
アリマス、ソレ故ニ第二種ノ砂糖ト致
シタモノガ、十八號未滿デ以テ五圓ノ
消費稅同ジ消費稅デ品質ノ良イモノヲ
使フト云フコトニナリマス、詰リ消費
者ノ負擔ヲ増サズシテ品質ノ良イモノ
ヲ使ハレルト云フコトニナルノデアリ
マス、又負擔ヲ増サナイノミナラズ、一
種ノ砂糖ガ二圓五十錢ニナリ、サウシ
テ第四種、五種ノ砂糖ガ今日ノ消費稅
ヨリ輕減サレルコトニナッテ、自然ニ價
格ヲ下ゲル働キトシテ見マスト云フ

ト、前ノ二種ノ砂糖モ價格ヲ他ノモノニ比較致シマシテ自然下グル勵キニナツテ來ナケレバナラヌ思フノデアリマス、サウナリマスレバ成ベク負擔ハ輕減シテ、サウシテ而モ品質ノ良イモノニ付キマシテハ、是ハ幾分免稅的ノ主義ヲ加ヘタモノデアリマシテ、大體今日ノ制度ヲ採ッタノデアリマス、糖密ニ付キマシテハ第一種ノ砂糖ト權衡ヲ取ッテ居リマスモノダケハ一種ノ砂糖ト同ジャウニ致シマシタガ、其他ハ大體現行ノ稅率デ取ッテ居リマス、ソレカラ先づ根本ノ問題トシテ、今日ハ和蘭ノ標本ヲ基礎ト致シマシテ、色相ニ依テ區別スルト云フコトガ變ヘタラドウカト云フ御議論モ屢承ツテ居ルノデアリマス、此點ニ付キマシテモ當局ハ十分ニ考究ヲ致シタノデアリマス、或ハ歐米デ課稅シテ居ルヤウニ、糖度ニ基イテ區別スルト云フコトモ考究シテ見タノデアリマス、然ルニ今日ノ日本ノ砂糖ノ消費ノ狀況ヲ見マスルト、黑糖トカ或ハ色ノ著イタモノモアル、分蜜モアル、含蜜モアル、或ハ白イモノモアル、非常ニ區々ニ互ツテ居リマス、歐米ノヤウニ消費ガ捕ウテ砂糖ガ統一サレテ居ルト云フノト違ヒマシテ、サウ云フ狀況カラ見マスト、之ヲ糖度ニ依テ區別スルト、今日ノ人ガ良イト思ハレテ居ル白イ所ノ砂糖ガ

却テ糖分ガ少クシテ、サウシテ色ノ著イテ居ル而モ安イト世人ガ認メテ居ル砂糖ノ方ガ、糖分ガ多イト云フ風ナ現象ヲ見ルコトモ多々アルノデアリマス、隨テ糖分ニ依テ區別ヲスルト云フコトハ實際ニ適シナイ、寧ロ取引ノ現狀ヲ破壞スルコトニナルト云フ考力ラ、是ハ採ルコトガ出來ナイト考ヘタノデアリマス、或ハ製造方法ニ依テノデアリマス、或ハ精白トカ分蜜トカ云フヤウナ區別モ一ツノ方法デアリマスガ、是モ今日ノ日本ノ狀況カラ見マシテ、是等ノ區別ハ困難デアル、ソレト同時ニ輸入スル砂糖ニ付キマシテモ、含蜜、分蜜ト云フコトヲ區別スルコトモ困難デアリマシテ、之ヲ採ルコトガ出来ナイ、矢張今日ハ和蘭標本ノ色相ニ依テ區別スルト云フ原則ニ依リマシテ、之ニ對シマシテ前申上ゲマシタヤウナ色ミノ理由ノ下ニ關稅竝消費稅ヲ按排致シタ次第デアリマス、極メテ大要デアリマスガ、大體ノ御説明ヲ致シマスレバ左様ナ次第デアリマス
○武藤委員長 如何デセウ——今日ハ是デ散會致シマス、明日ハ午前十時カラ開會致シマス

午後五時十三分散會